

**播磨町障害福祉計画・障害児福祉計画に係る
アンケート結果報告書**

令和2年10月

播磨町

播磨町地域自立支援協議会

目次

1 調査結果(18歳まで)	1
2 調査結果(18歳以上)	21
3 調査結果(支援者)	38

本調査は、「播磨町第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画」の策定の基礎資料とすることを目的とし、町内にお住まいの障害者手帳をお持ちの方やそのご家族、支援者の方々のウィズコロナ下での現状や率直なご意見・ご要望等を把握し、今後の障害者施策等に活用するため、播磨町地域自立支援協議会が実施しました。

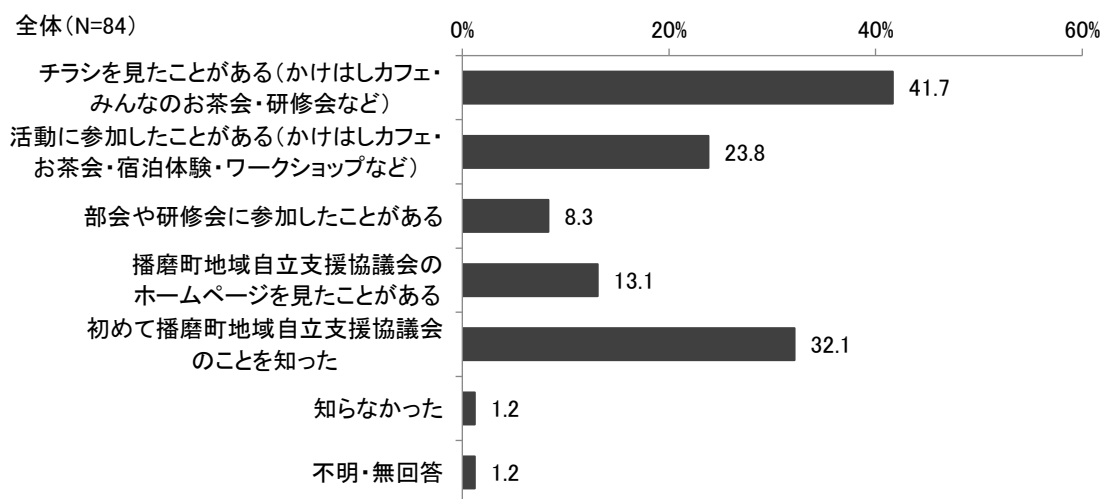
従来はワークショップを実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、今年度はWeb調査（インターネットにおけるアンケート調査）を実施しました。

ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

1 調査結果(18歳まで)

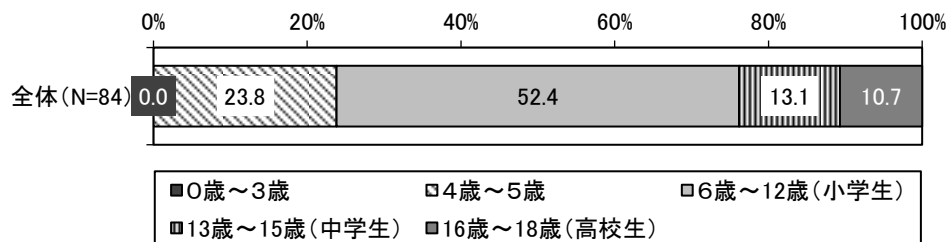
(1) 播磨町地域自立支援協議会を知っていますか。〈複数回答〉

播磨町地域自立支援協議会を知っているかについてみると、「チラシを見たことがある(かけはしカフェ・みんなのお茶会・研修会など)」が41.7%と最も高く、次いで「初めて播磨町地域自立支援協議会のことを知った」が32.1%となっています。



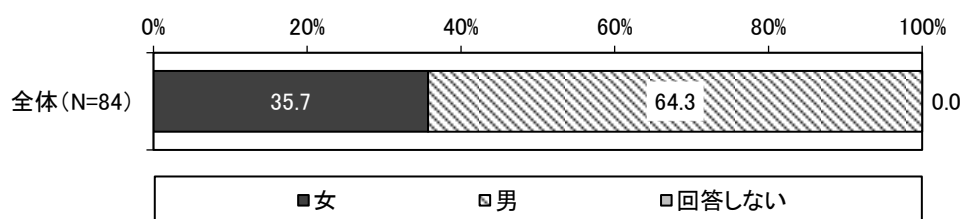
(2) お子さんの年齢〈単数回答〉

お子さんの年齢についてみると、「6歳～12歳(小学生)」が52.4%と最も高く、次いで「4歳～5歳」が23.8%となっています。



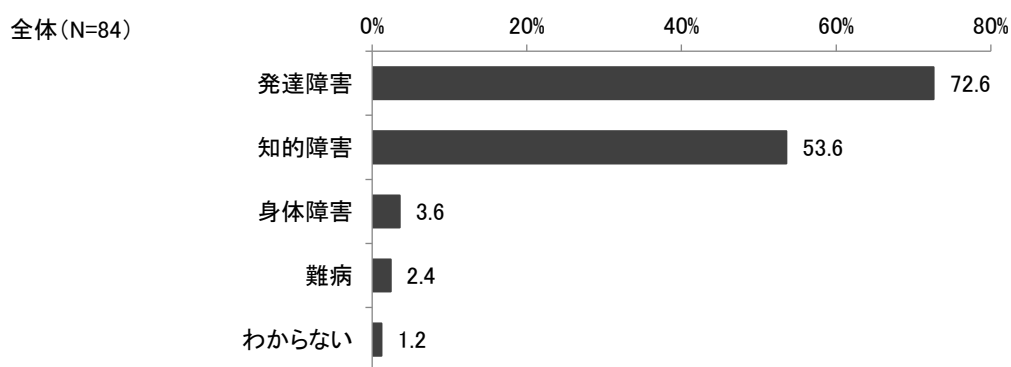
(3) お子さんの性別〈単数回答〉

お子さんの性別についてみると、「女」が35.7%、「男」が64.3%となっています。



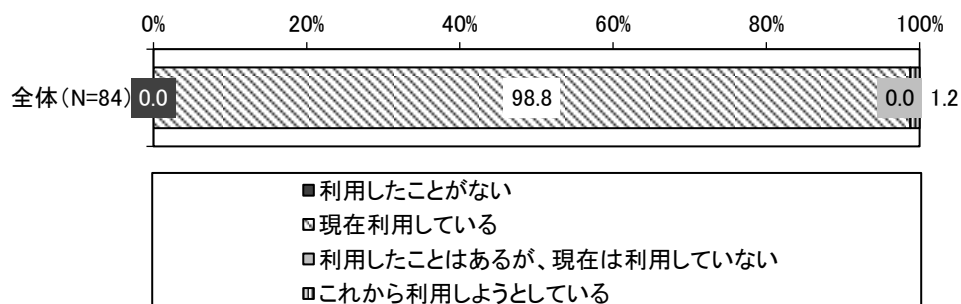
(4) 障害種別をお答えください。〈複数回答〉

障害種別についてみると、「発達障害」が72.6%と最も高く、次いで「知的障害」が53.6%となっています。



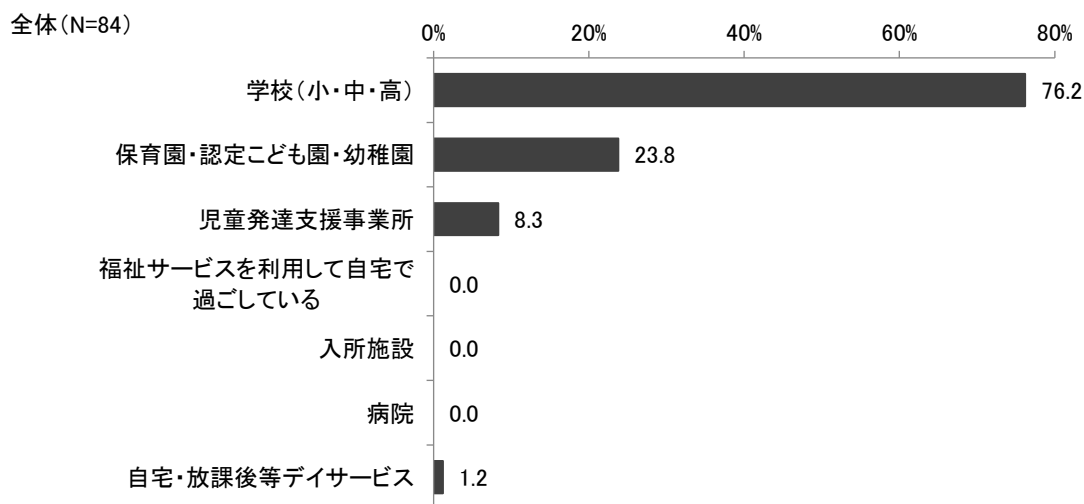
(5) 児童発達や放課後等デイサービスなど福祉サービスを利用していますか。〈単数回答〉

福祉サービスの利用の有無についてみると、「現在利用している」が98.8%と最も高く、次いで「これから利用しようとしている」が1.2%となっています。



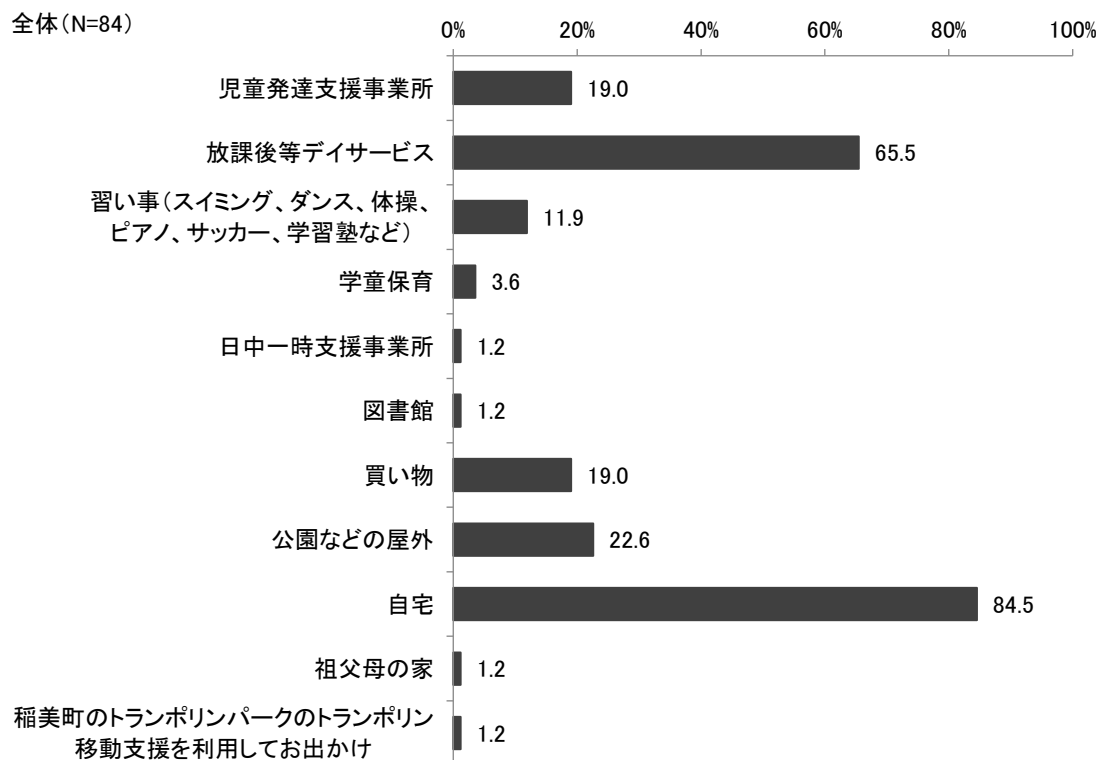
(6) お子さんは「平日の昼間」は主にどこで過ごしていますか。〈複数回答〉

お子さんの平日の昼間の過ごし方についてみると、「学校（小・中・高）」が76.2%と最も高く、次いで「保育園・認定子ども園・幼稚園」が23.8%となっています。



(7) お子さんは、「休みの日」や「園や学校などが終わったあと」は主にどこで過ごしていますか。〈複数回答〉

お子さんの休日や放課後等の過ごし方についてみると、「自宅」が84.5%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」が65.5%となっています。

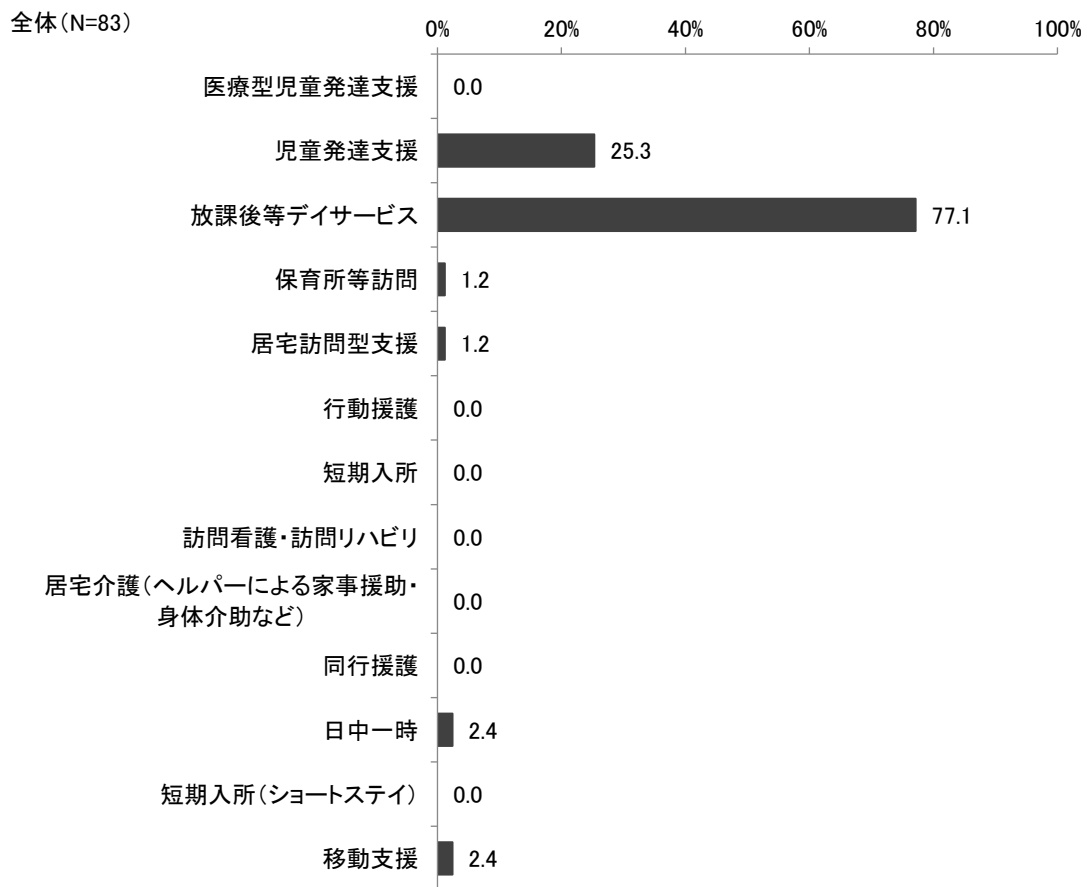


福祉サービスを利用していない、利用したことはあるが現在利用していないと回答した人はいませんでした。

利用していると回答された方

(8) どのようなサービスを利用されていますか。〈複数回答〉

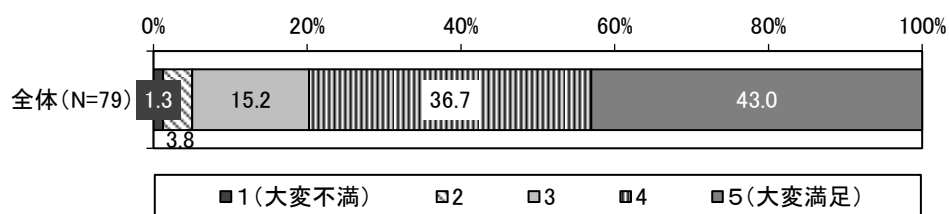
サービスの利用についてみると、「放課後等デイサービス」が77.1%と最も高く、次いで「児童発達支援」が25.3%となっています。



通所系サービスを利用している方

(9) 利用満足度をお聞かせください。〈単数回答〉

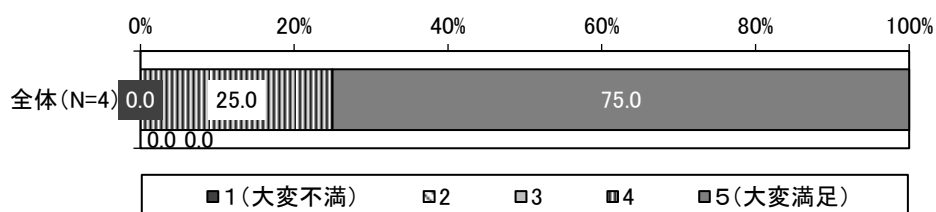
通所系サービスの利用満足度についてみると、「5」が43.0%と最も高く、次いで「4」が36.7%となっています。



訪問系サービスを利用している方

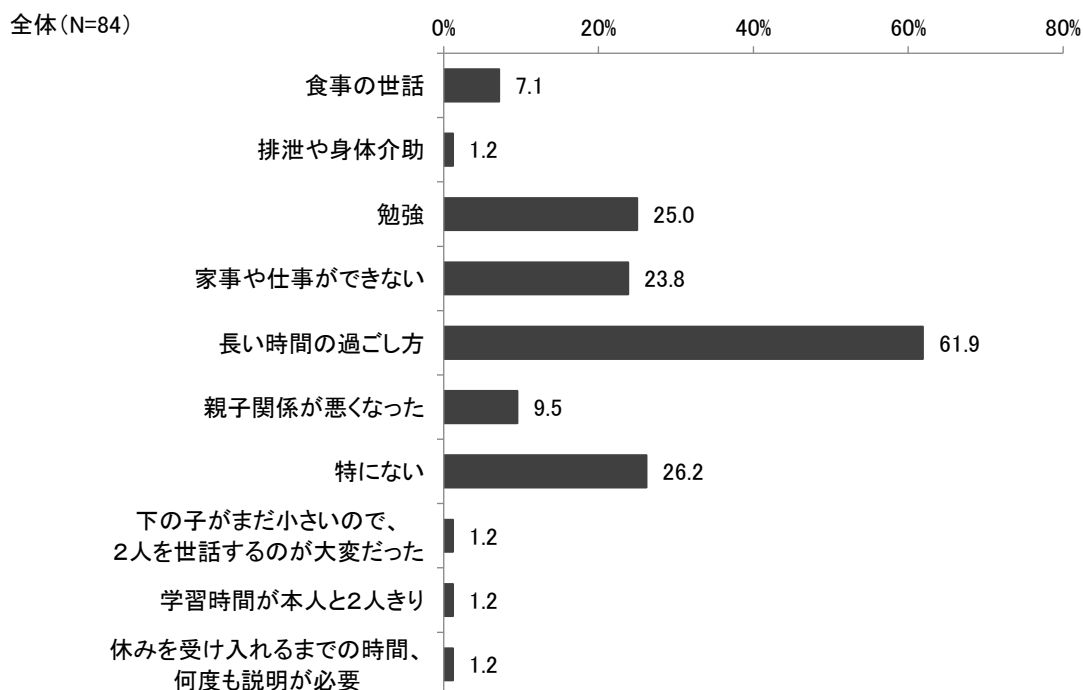
(10) 利用満足度をお聞かせください。〈単数回答〉

訪問系サービスの利用満足度についてみると、「5」が75.0%（3件）と最も高く、次いで「4」が25.0%（1件）となっています。



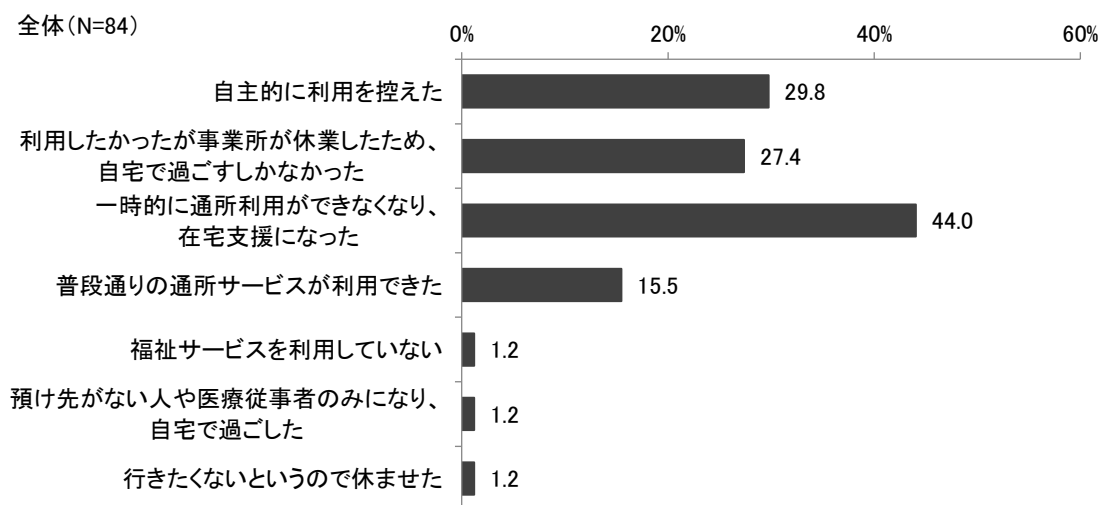
(11) 園や学校が休校、事業所の通所ができなくなったとき、困ったことは何ですか。
 〈複数回答〉

園や学校が休校、事業所の通所ができなくなったとき、困ったことについてみると、「長い時間の過ごし方」が61.9%と最も高く、次いで「特にない」が26.2%となっています。



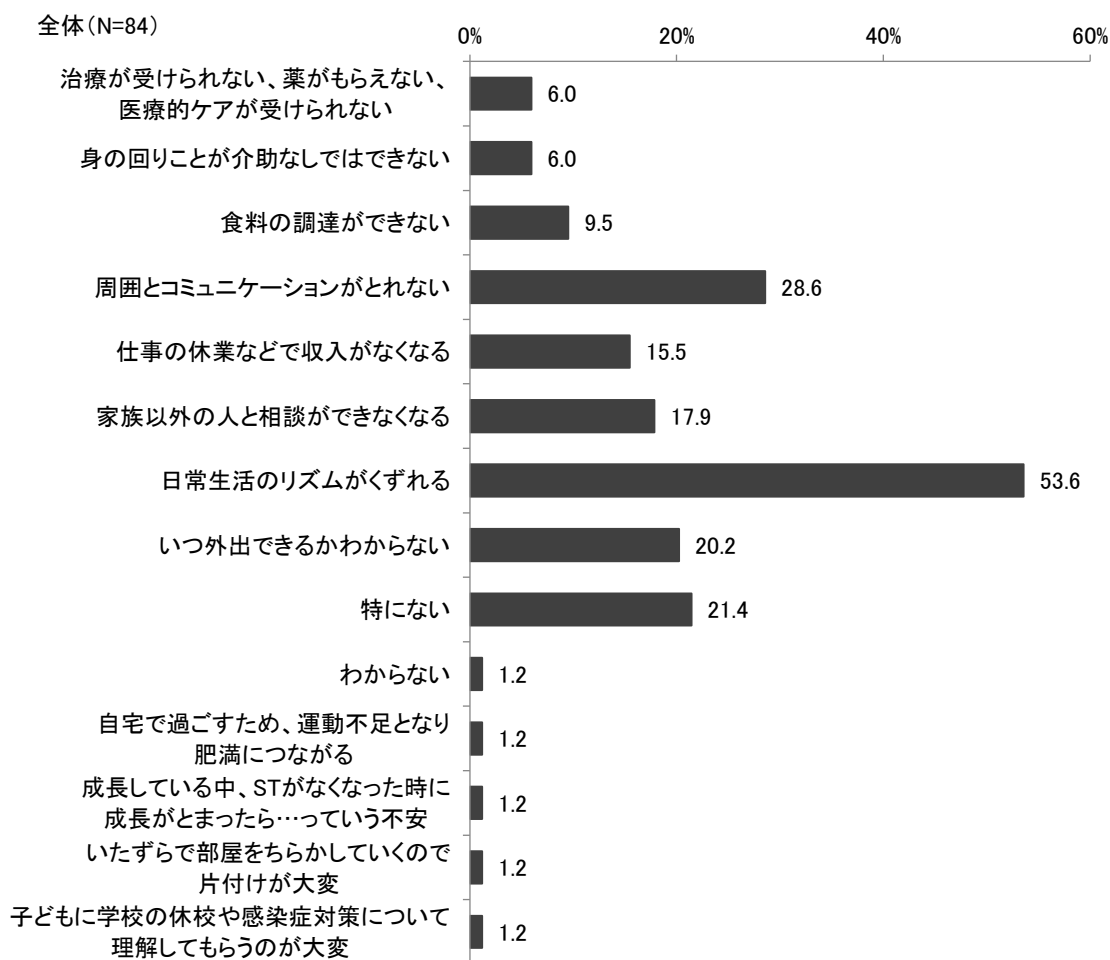
(12) コロナで緊急事態宣言が出たときの福祉サービス利用についてお答えください。
 〈複数回答〉

コロナで緊急事態宣言が出たときの福祉サービス利用についてみると、「一時的に通所利用ができなくなり、在宅支援になった」が44.0%と最も高く、次いで「自主的に利用を控えた」が29.8%となっています。



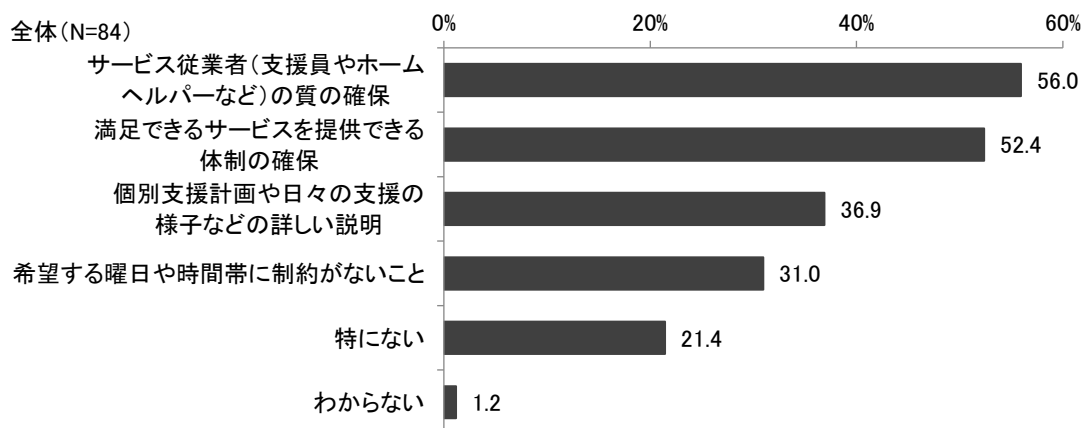
(13) 感染症対策などで外出ができなくなったとき、障害があることで困ること、心配なことはありますか。〈複数回答〉

感染症対策などで外出ができなくなったとき、障害があることで困ること、心配なことについてみると、「日常生活のリズムがくずれる」が53.6%と最も高く、次いで「周囲とコミュニケーションがとれない」が28.6%となっています。



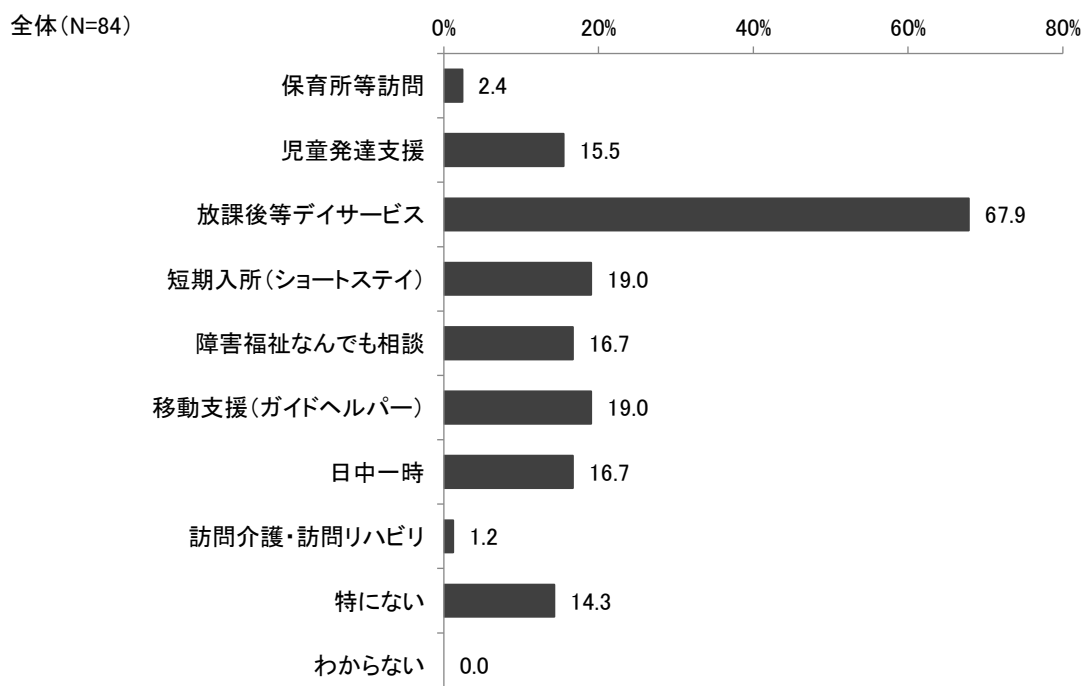
(14) あなたが、サービス提供事業者に対して望むことは何ですか。〈複数回答〉

サービス提供事業者に対して望むことについてみると、「サービス従業者（支援員やホームヘルパーなど）の質の確保」が56.0%と最も高く、次いで「満足できるサービスを提供できる体制の確保」が52.4%となっています。



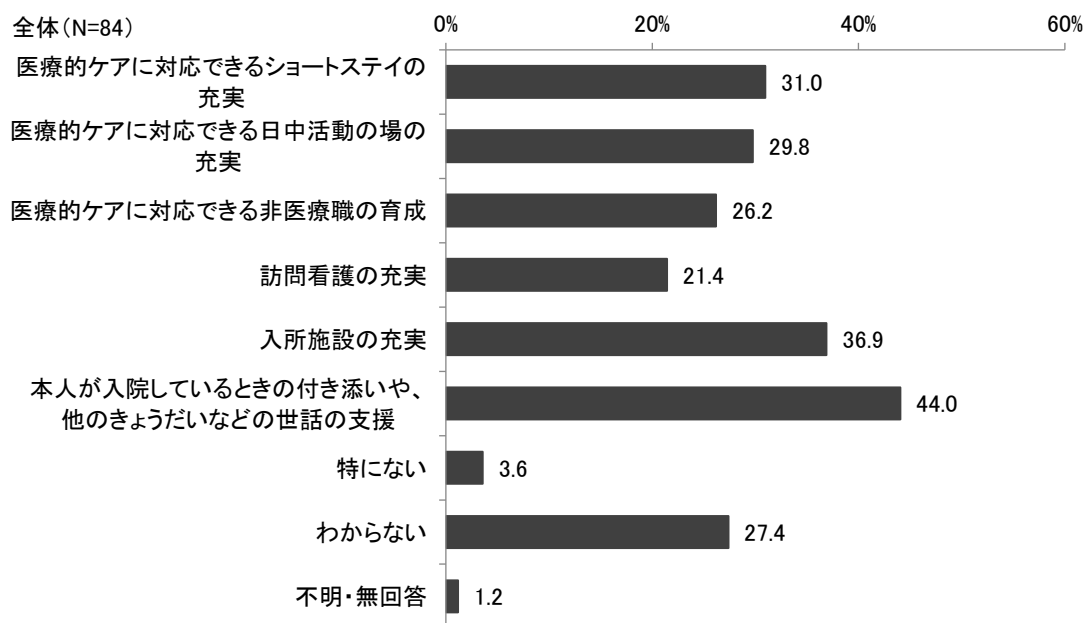
(15) 今利用しているサービスも含め、今後使ってみたいサービスは何ですか。〈複数回答〉

今後使ってみたいサービスについてみると、「放課後等デイサービス」が67.9%と最も高く、次いで「短期入所（ショートステイ）」「移動支援（ガイドヘルパー）」がそれぞれ19.0%となっています。



(16) 医療的ケアを必要とする人が、安心して暮らすために充実すべきだと思うサービスは何ですか。〈複数回答〉

医療的ケアを必要とする人が、安心して暮らすために充実すべきサービスについてみると、「本人が入院しているときの付き添いや、他のきょうだいなどの世話の支援」が44.0%と最も高く、次いで「入所施設の充実」が36.9%となっています。



(17) 福祉サービスの中で、改善してほしいことは何ですか。〈自由回答〉

オンラインで勉強を教えて欲しいです。
今は満足しています。今後も楽しく過ごさせていただける場を作ってくださいとありがたいです。
一人一人障害の度合いは違うので、一人一人を見てほしい。
放課後等デイサービスでプールを利用できるのがリンクサポートのみ。現在キャンセル待ち 20 人で、小学校以降、プールを安心して続けられるところの確保。放課後等デイサービスがいっぱいでどこにも入れそうにない。入れる状況を作ってほしい。
他の兄弟の世話や支援、仕事をしやすい環境。(下校後、鍵を一人で開けられない、一人で療育まで行けない、仕事をできる時間が限られてくる為、他の兄弟を保育園に入れるだけの就労時間が取れない為、就活も難しいので改善してほしい)
児童の日中一時、短期入所できるところを町内に作ってほしいです。
通所できる事業所数がニーズに足りていない。サービスやスタッフの質の確保(維持できる環境という意味)が一番ですが、「空き待ち」の現状を嘆く声が聞こえてきます。他には特化型(スポーツ、運動、勉強)の事業所が増えると嬉しいです。習い事のような。他の定型発達の子の中での習い事はいろいろ気を遣う場面も多く、あきらめがちです。
中学校から、東はりま特別支援学校への進学だが、下校時間が早くなるので、放課後等デイサービス利用日の全体支給日数を増やしてほしい。部活は高等部からであり、部活に参加しても 16 時帰りである。今から、来年度の午後の過ごし方については悩んでいる。
本当に困っている人に、早く手助けができるといいと思う。いろいろな支援がある、もっとみんなが使える体制、広く知ってほしい、ハードルを低くしたい。幼・保育園で言語・作業療法士の配置、だれにでもアドバイスしてほしい。
中高生の長期休みの居場所を作してほしい。
○私の体調が悪い時、下の子の用事ができた時、急用時等、実家が遠いのですぐに頼める人がいなくて、デイサービス利用時以外で時間帯や利用時間に関係なく、短時間見てくれる人がいると助かります。 ○アドバイスをたくさん受けても何から実行すればよいかわからず、時間に限りもあるので全部できない。家でできることなどに優先順位をつけてアドバイスをもらえるとわかりやすい。(本人が将来困らないように)
夏休み、祝日等時間短縮は、働いている親としては改善できないかと思いました。
日中一時、ショートステイの施設を増やしてほしい。
放課後等デイサービスを希望した時に、待機なしで希望者全員が通えるようになって欲しい。
緊急事態宣言時は仕方ないと思ったが、事業所によって開所の時間がまちまちで、落ち着いて通所してくれない。今後も社会情勢が不安定になるのが予想されるので、時短するにしても最低何時間は開ける、等ある程度決まりがあれば良いかもしれない。
放課後デイサービス施設を増やしてほしい。現在播磨町で通える施設が無く、皆んな不安で困っています。支援が途切れない環境を作って欲しい。
役場からの福祉サービス情報の発信をもっと分かりやすくしてほしい。広報へ載せるだけでなく、利用できるサービスのガイドマップ的なものが欲しい。
放課後等デイサービスに、空きが無いので増やして欲しい。
質の良い療育をしてくださるサービスが少ないので、発達障害の子に対する細やかなサービスができる所が増えてほしい。

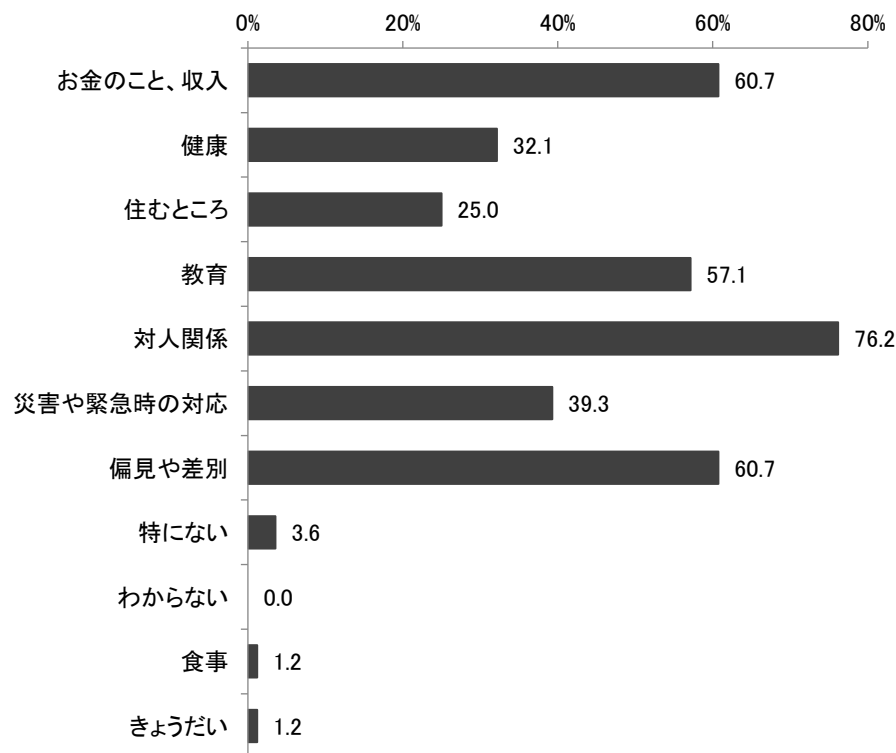
(18) 新たなサービスとして作ってほしいものは何ですか。〈自由回答〉

他の兄弟の事まで手が回らなかったり、疎かになりがち。保育園に預けやすくなる等、もう少しゆるめてほしい。他の兄弟が保育園に入れるだけでも仕事ができるし、長くかかる病院へも診察に連れていきやすい。放課後等デイサービスの送迎も少しでも気が楽。
健全の子と一緒に活動できる体験の場を支援員さんと一緒に参加できるサービス。
習い事のように趣味やスポーツ系の充実、特化したサービスがもっと増えたらいいなと思います。
町からの送迎。学校から送迎車で療育に行くなど、家から一人で行かなくてよいシステム。バスや電車を使つての送迎は時間もお金も心配なので、送迎してくれるバス等のサービスがあれば嬉しい。
習い事のように通える特化型のサービスがあれば嬉しい。ダンス、習字、サッカー、バスケ、水泳等、普通にある習い事が知的障害、発達障害という前提で受けられるサービスがあってもいいと思います。
言語・作業療法士・育成プログラム・ペアレントトレーニング・短時間プログラム・リモート。
出来ない事や苦手な事の支援やサービスも大切ですが、本人の得意な事を伸ばしていけるようなサービスがあれば、日々に居場所や楽しい時間が増えると思います。
ホームヘルパーやガイドヘルパーもデイサービス利用内の費用で利用できることを最近知りました。利用できるサービスや料金の一覧表や話が聞ける場があればいいと思います。
一時預りサービス。日中一時は成人も子供も一緒なので、なかなか利用しづらいと聞くので。
放課後等デイサービス。
ホームページにチャート式に回答していけば、利用できる福祉サービスの一覧が見られる、というページがあれば誰でも情報にアクセスしやすくして良いと思う。
発達障害の子どもたちへの学習面のサポートができる学習教室がほしい。

(19) 今後のお子さんの生活について、気がかりに思うことは何ですか。〈複数回答〉

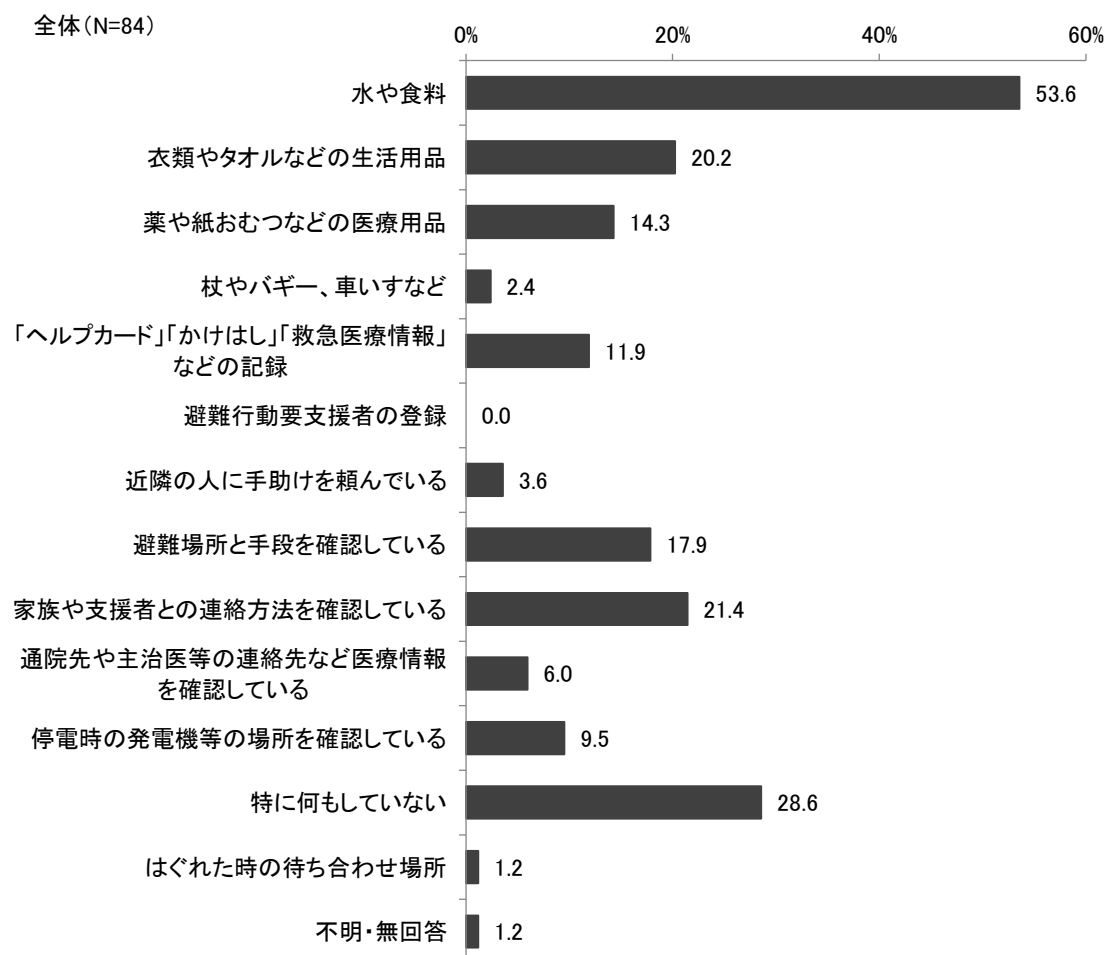
今後のお子さんの生活について、気がかりに思うことについてみると、「対人関係」が76.2%と最も高く、次いで「お金のこと、収入」「偏見や差別」がそれぞれ60.7%となっています。

全体(N=84)



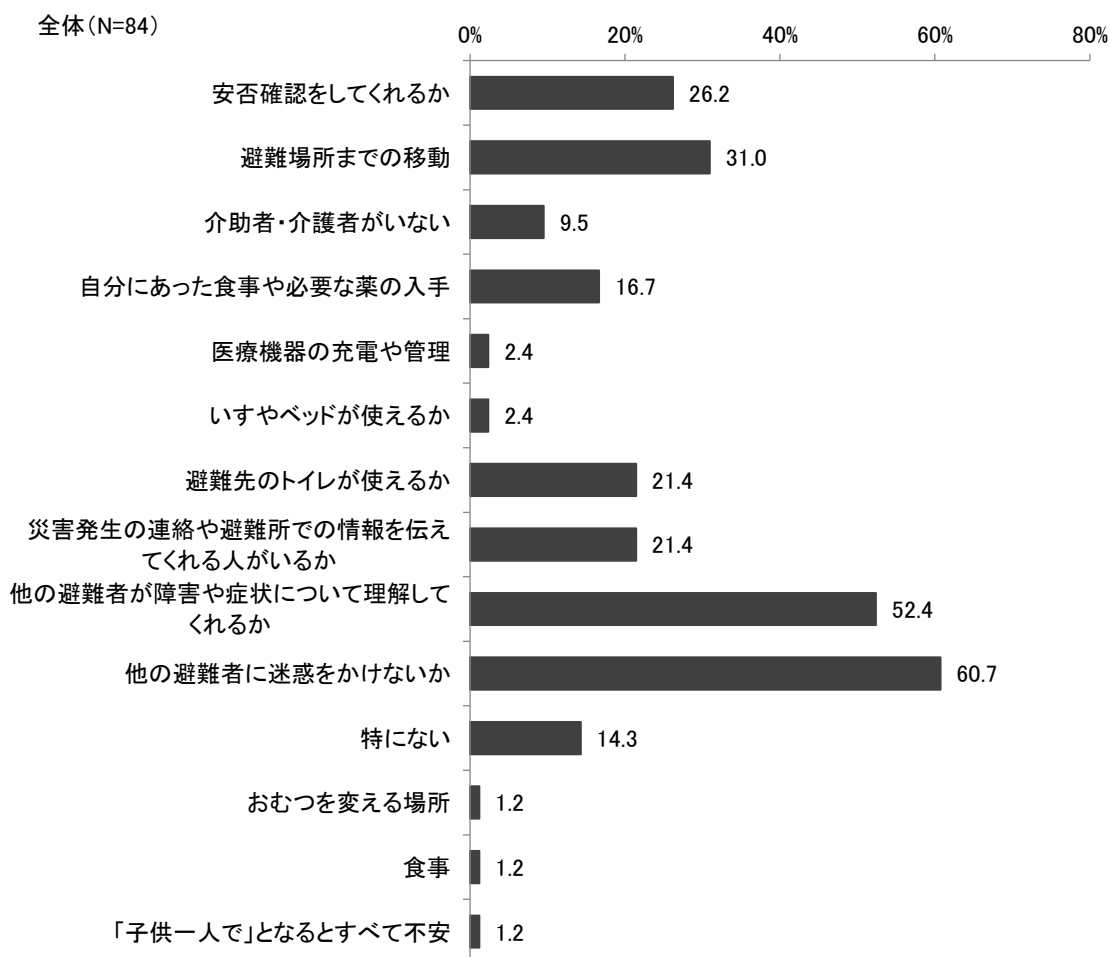
(20) 災害が起こったときのために、準備しているものは何ですか。〈複数回答〉

災害が起こったときのために、準備しているものについてみると、「水や食料」が53.6%と最も高く、次いで「特に何もしていない」が28.6%となっています。



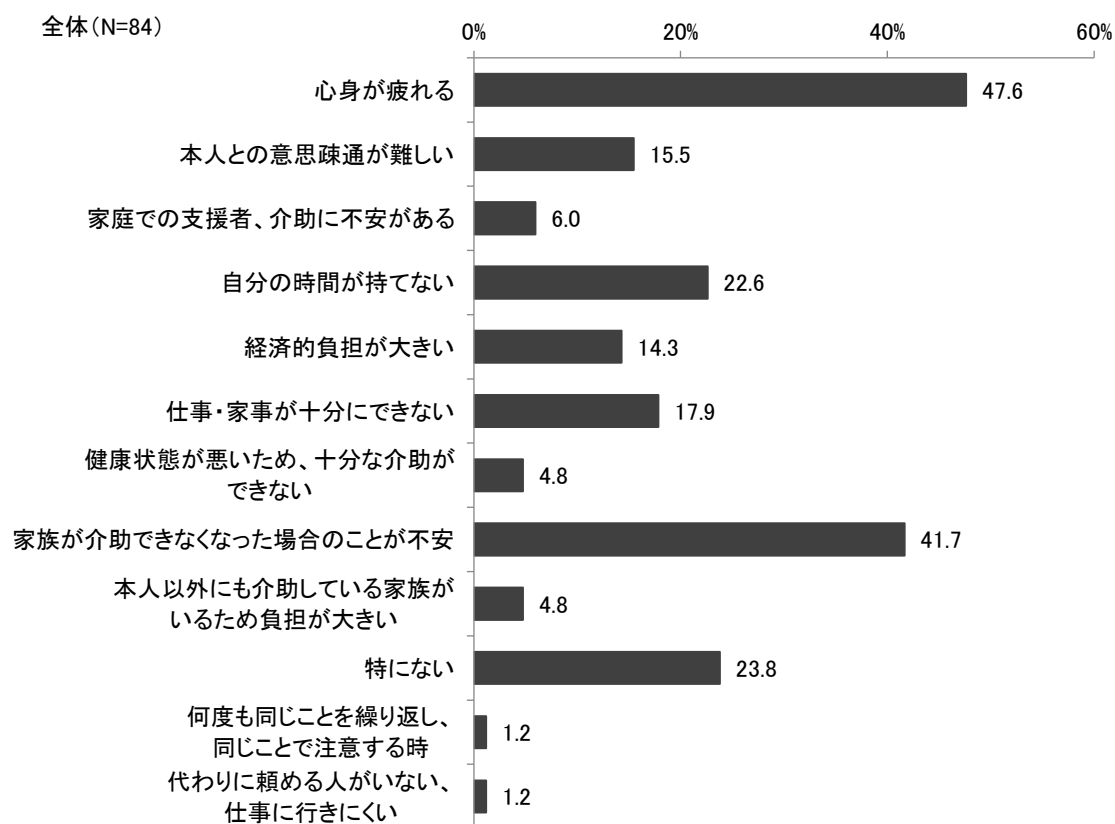
(21) 災害発生時や避難場所での生活で、不安に思うことはありますか。〈複数回答〉

災害発生時や避難場所での生活で、不安に思うことについてみると、「他の避難者に迷惑をかけるか」が60.7%と最も高く、次いで「他の避難者が障害や症状について理解してくれるか」が52.4%となっています。



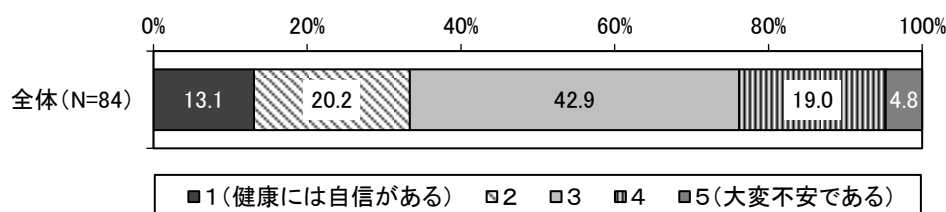
(22) 家族の方が介助等について困っていることは何ですか。〈複数回答〉

家族の方が介助等について困っていることについてみると、「心身が疲れる」が47.6%と最も高く、次いで「家族が介助できなくなった場合のことが不安」が41.7%となっています。



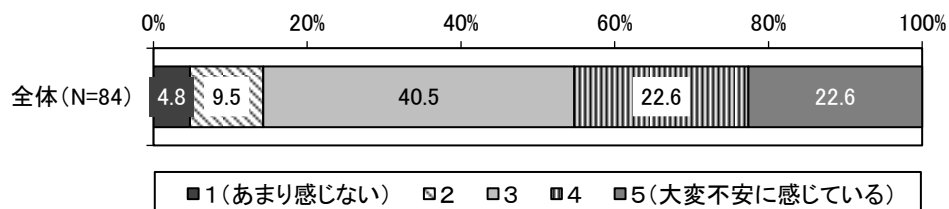
(23) 家族の方にお尋ねします。健康状態はいかがですか。〈単数回答〉

家族の健康状態についてみると、「3」が42.9%と最も高く、次いで「2」が20.2%となっています。



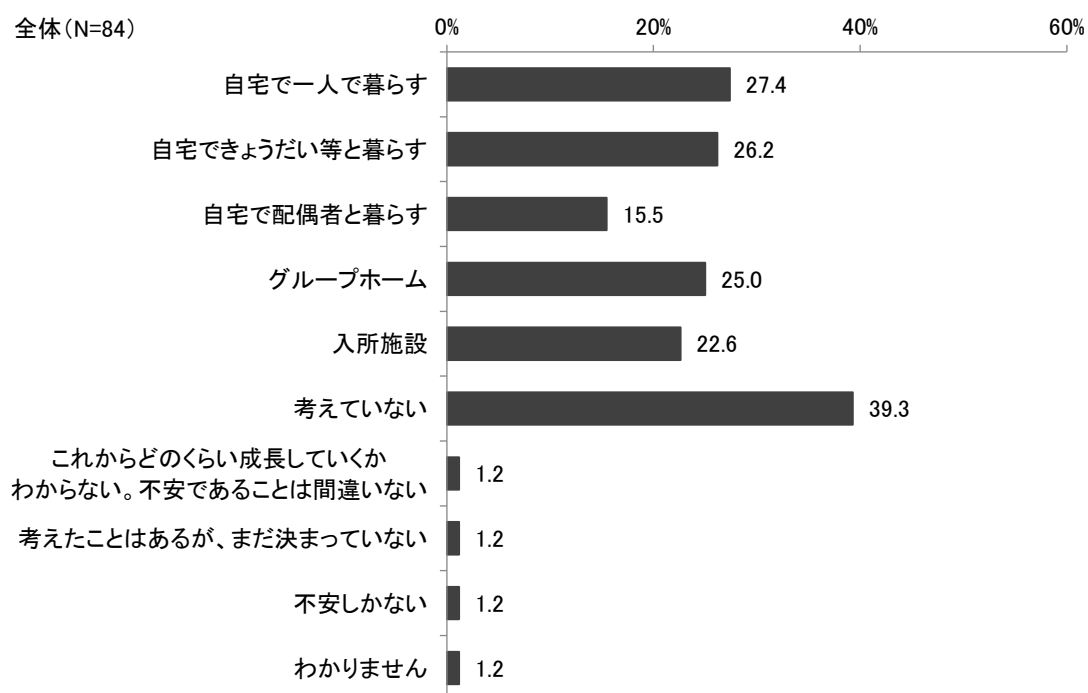
(24) 経済的な不安について、どのくらい感じていますか。〈単数回答〉

経済的な不安についてみると、「3」が40.5%と最も高く、次いで「4」「5」がそれぞれ22.6%となっています。



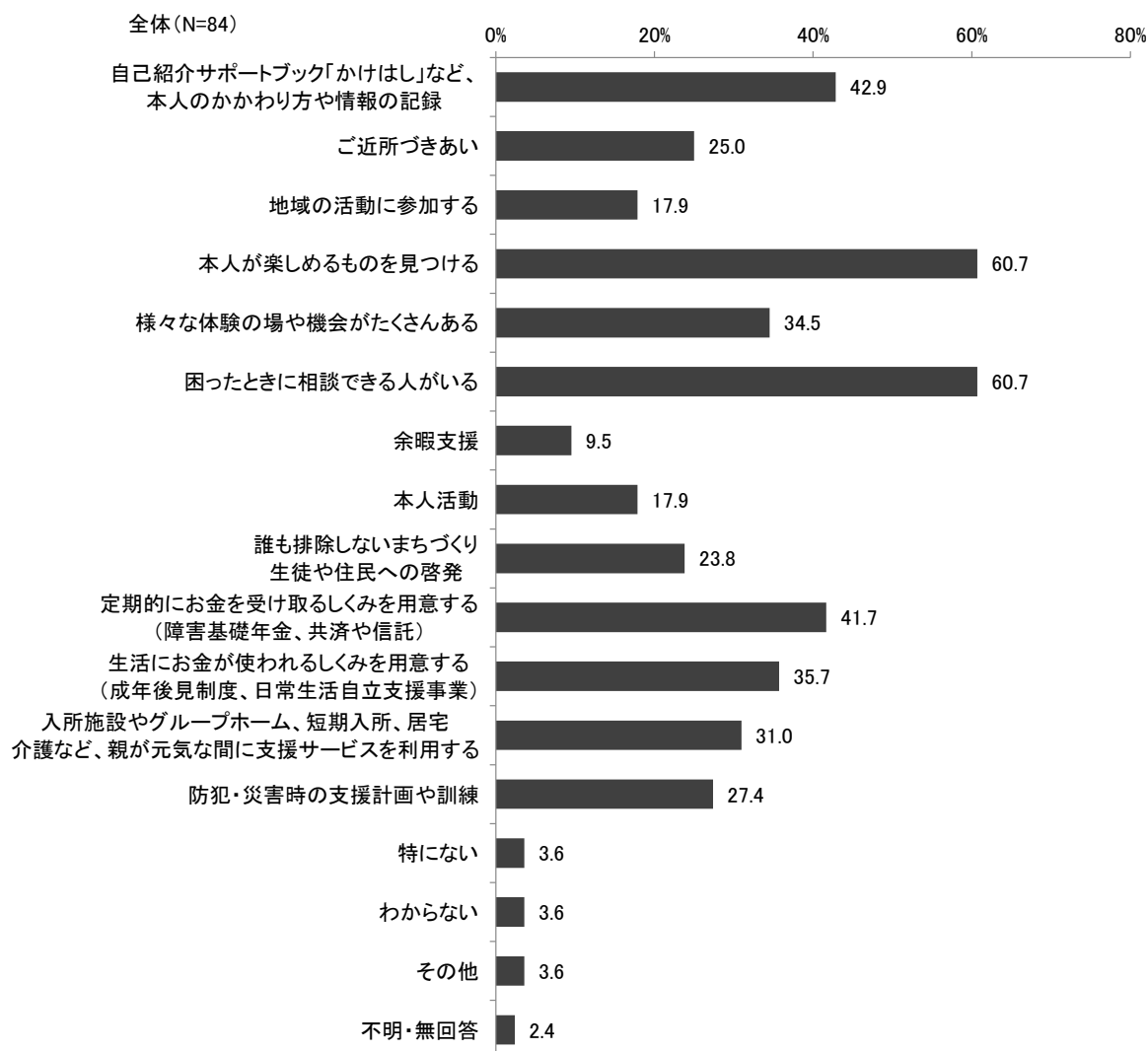
(25) 親なきあと、住まいについてどのようにお考えですか。〈複数回答〉

親なきあとの住まいについてみると、「考えていない」が39.3%と最も高く、次いで「自宅で一人で暮らす」が27.4%となっています。



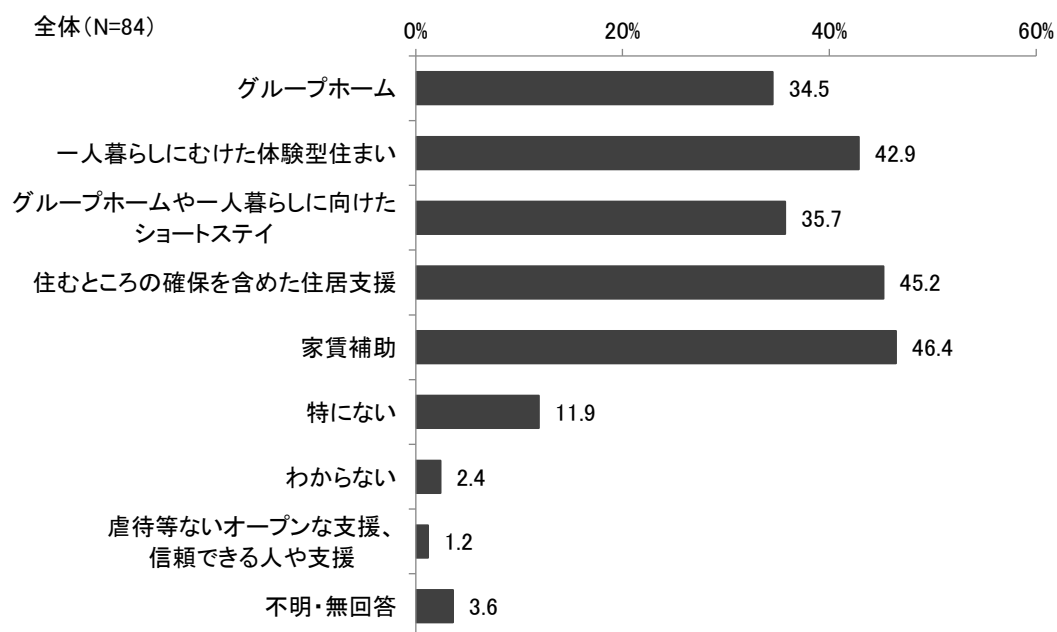
(26) 親なきあとの生活をみすえて、本人が望む生活を実現するために、今からしておくべきこととして、どのようなことが必要だと思いますか。〈複数回答〉

親なきあとの生活をみすえて、本人が望む生活を実現するために、今からしておくべきことについてみると、「本人が楽しめるものを見つける」「困ったときに相談できる人がいる」がそれぞれ60.7%と高くなっており、次いで「自己紹介サポートブック「かけはし」など、本人のかかわり方や情報の記録」が42.9%となっています。



(27) 住まいについてどのようなサービスがあれば安心ですか。〈複数回答〉

住まいについてどのようなサービスがあれば安心かについてみると、「家賃補助」が46.4%と最も高く、次いで「住むところの確保を含めた住居支援」が45.2%となっています。



(28) 親なきあとの支援の在り方について提案があれば、ご記入ください。

〈自由回答〉

一人でも生きていけるだけのお給料。
本人が相談できる人が必要だと思う。本人が福祉サービス情報を求めて調べたりする事は難しいと思うので。福祉サービスを利用していなくても、民生委員さん等に気にかけて声を掛けて貰えたら助かります。また、民生委員さんにも障害福祉サービスの相談窓口がどこにあるかを知ってもらい、親亡き後も本人に相談先をアドバイスして貰えたら安心できる。
とても不安です。国や町でしっかりとしたサポートがほしいです。
子どもがまだ小さいので、具体的にはまだ分からないのですが、生活的に困っていないかの確認とフォローをお願いできる形になっていると嬉しいです。
まだ分からない事ばかりなので、冊子など色々な情報がほしいです。
困った事があればいつでも気軽に相談でき、きちんと暮らせているか訪問で確認。
グループホームにしても、一人暮らしにしても親がいなくなった後、親の変わりに見守ってもらえる支援はとてもありがたいです。
○子供が重度知的障害なので、親が介護できなくなった時は施設入所を考えています。(下の子の負担にはしたくないので)しかし、虐待、いじめ、環境が悪い、お金が目的などの話も聞くことも多いので、安心して暮らせる環境が一番ほしいです。
○できれば、施設のそばに親も住んで週末には帰ってきたり顔を見に行けたらいいなと思っています。
虐待等の心配(施設や職場での)。経済的にすごく心配だし不可能。
本人らしく、それでいて安心できる暮らしが確保されるといいなと思います。お金、住む所、食べる物、仕事等、安定した日々が送れるように長期で契約し、公的な支援が受けれるような状態であればいいと思います。
本人が本人なりに自立できることが一番ですが、難しい場合、フォローしていただいたり、性質を理解してもらえる環境ができていたらいいなと思います。

(29) 播磨町の障害福祉施策全般について意見があれば、ご記入ください。

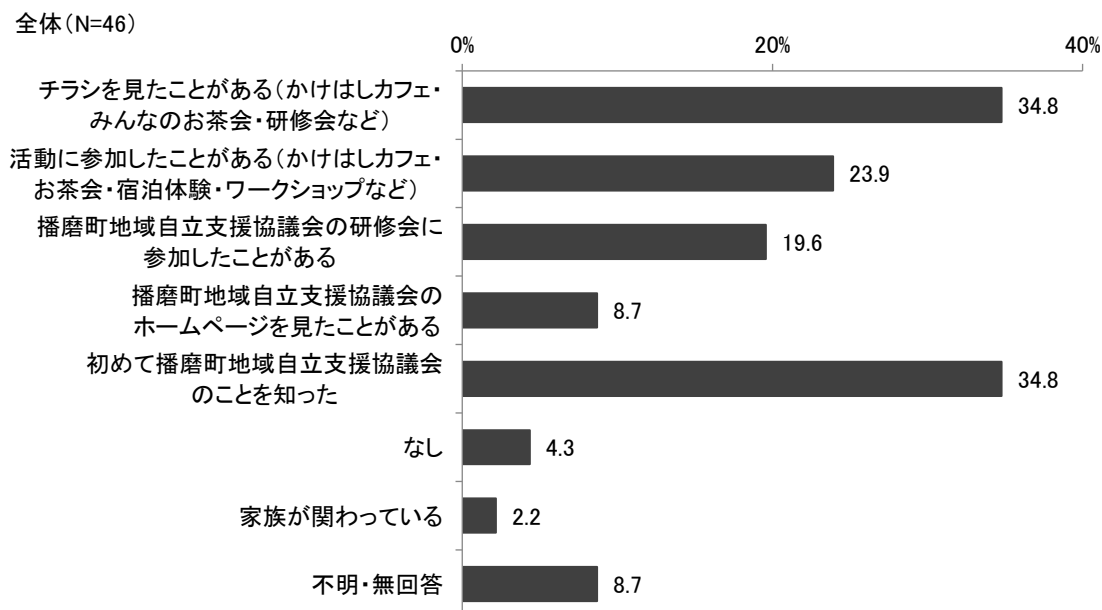
〈自由回答〉

「支援学級に入ったら学用品の奨励金が出るからレシートを置いておいた方がいい。」など、知ってる人から偶然聞いて知った事が多いから、そういうのをまとめた案内がほしい。知らない人が損になる。
手厚くして下さり、助かっています。
手厚いと感じているが、福祉サービスまでたどり着きにくいと思います、。
その他の兄弟にも目を向けてもらえると生活しやすくなる気がする。単純な時間のロスだけでなく、普通以上に時間や労力が必要になってきている事を知ってもらいたいし、理解しようとしてもらいたいです。
今はとてもありがたい形にフォローしていただいていると思います。
もっと早く支援事業を利用したかったと思うこともあります。多胎児訪問支援とかあったらいいと思う(乳児期)
グループホームもしくは、一人暮らし用ハイツ(相談員常時在中)を充実してほしい。
親なき後のお金の問題・管理についての知識が浅いので、研修会などを設けてほしい。
このアンケートを通して、今後のことを考えるよい機会になりました。
障害者という一括りではなく、個人を見てほしい。
○入所施設をたくさん作ってほしいと思います。
○やはり地域の人の関わりは大事だと思います。認知症の高齢者の方も増えてくると思うので、お互いを理解すること「人間とは何か？」という教育も必要になってくると思います。
○コロナ禍でお母さん同士の交流も減ってきていると思います。やはり経験者の話は貴重ですし、愚痴を言い合える場も大事だと感じています。
○家族に障害者がいる方＋カウンセラーとしての力量がある方だと話したいです。
どのような福祉サービスがあるか、4月、9月等に配布してほしい。
色々もっと手厚くしてほしい。もっと理解してもらいたい。居やすい町になってほしい。(理解や支援)
ご協力いただける方がいらっしゃれば、体験談の機会を設けて頂けると、大変参考になると思います。その中で、親なき後の支援の在り方や、今からできることが見えてくる(イメージしやすい)と思いました。
子供の性質について早いころから気づき関わってくださって助かりましたので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

2 調査結果(18歳以上)

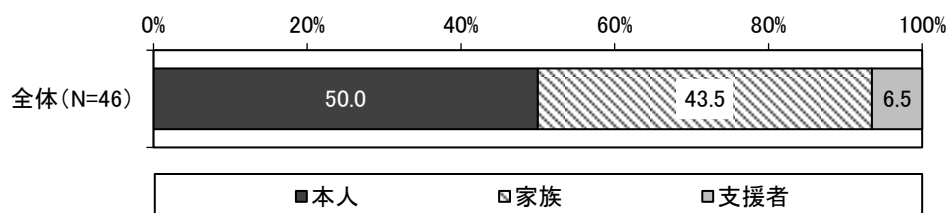
(1) 播磨町地域自立支援協議会にかかわったことがありますか。〈複数回答〉

播磨町地域自立支援協議会にかかわったことがあるかについてみると、「チラシを見たことがある(かけはしカフェ・みんなのお茶会・研修会など)」「初めて播磨町地域自立支援協議会のことを知った」がそれぞれ34.8%と最も高く、次いで「活動に参加したことがある(かけはしカフェ・お茶会・宿泊体験・ワークショップなど)」が23.9%となっています。



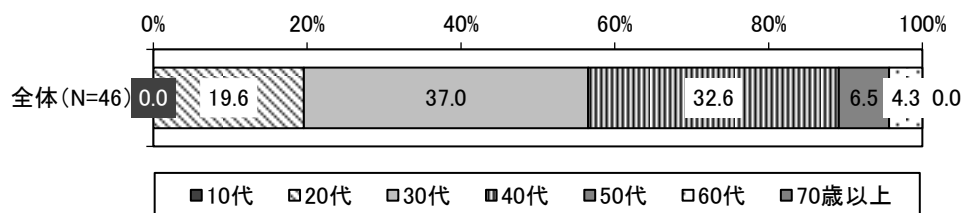
(2) このアンケートに回答されている方の立場をおしえてください。〈単数回答〉

回答者についてみると、「本人」が50.0%と最も高く、次いで「家族」が43.5%となっています。



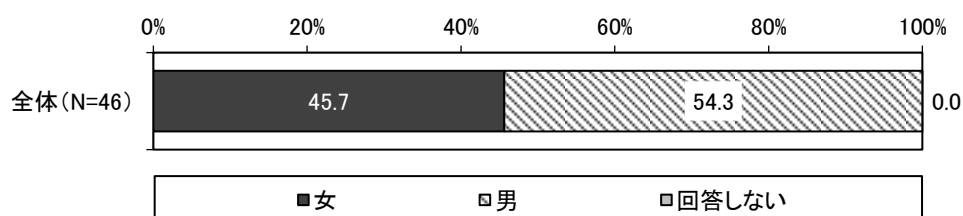
(3) 年齢〈単数回答〉

年齢についてみると、「30代」が37.0%と最も高く、次いで「40代」が32.6%となっています。



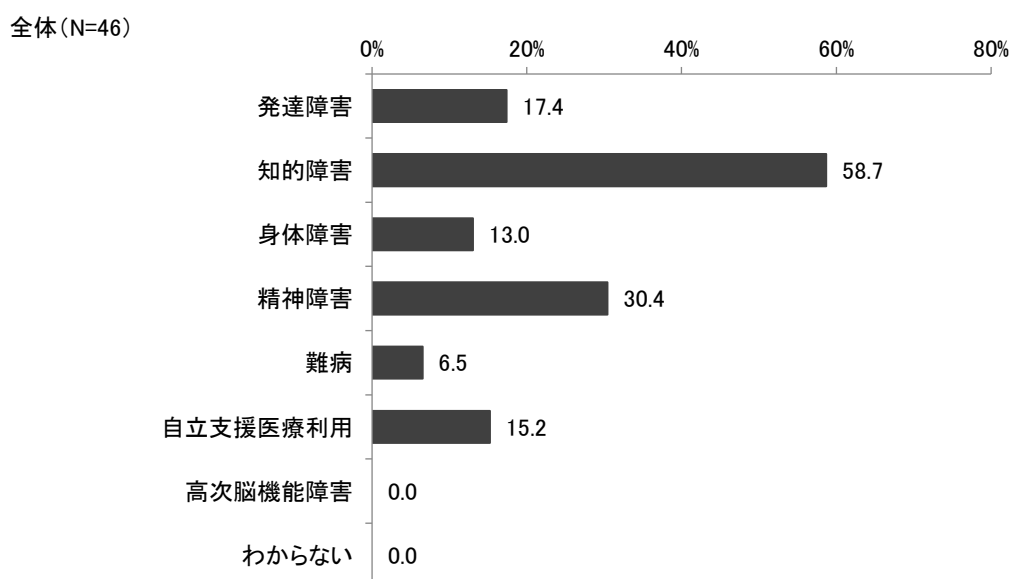
(4) 性別〈単数回答〉

性別についてみると、「女」が45.7%、「男」が54.3%となっています。



(5) 障害種別をお答えください。〈複数回答〉

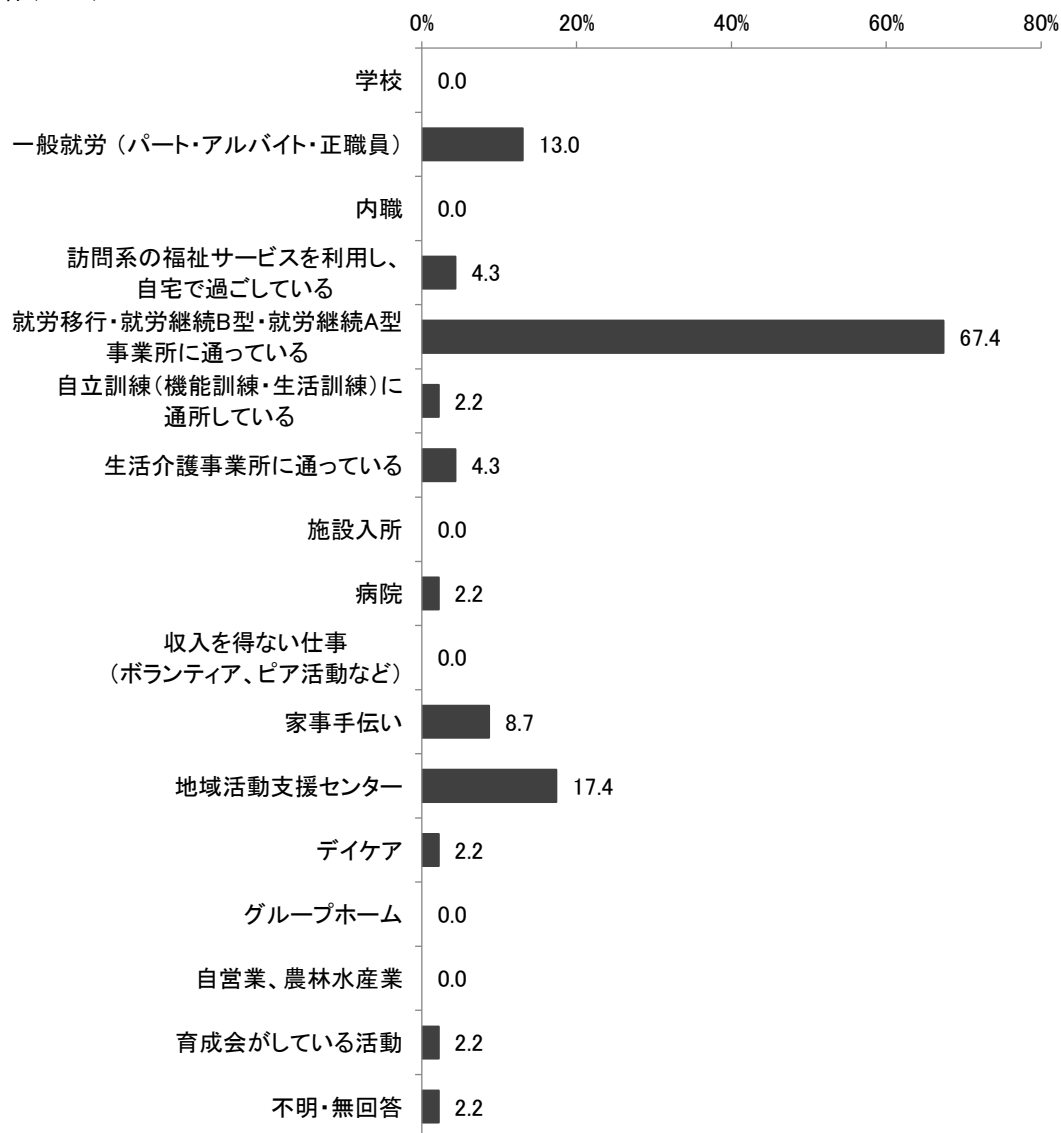
障害種別についてみると、「知的障害」が58.7%と最も高く、次いで「精神障害」が30.4%となっています。



(6) 「平日の昼間」は主にどのように過ごしていますか。〈複数回答〉

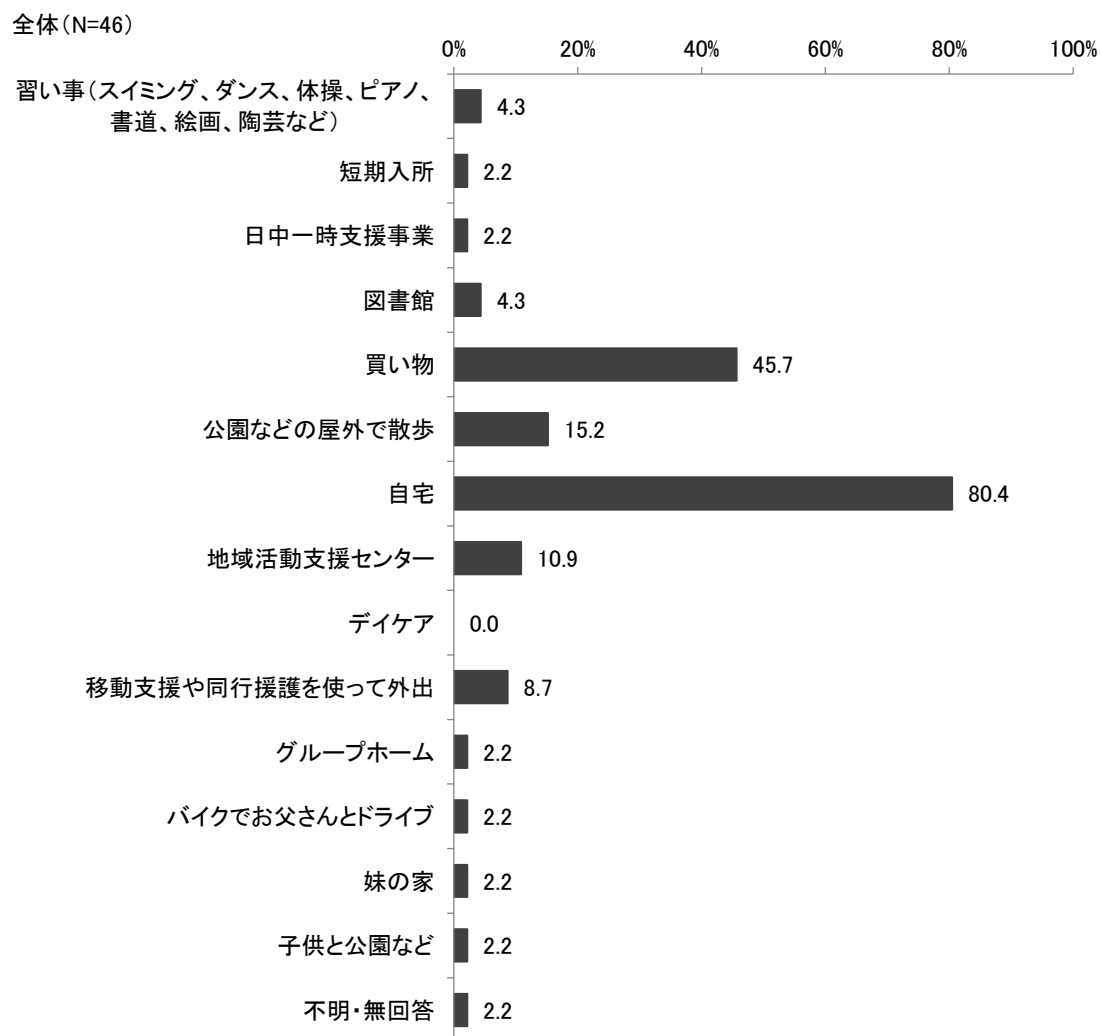
平日の昼間の過ごし方についてみると、「就労移行・就労継続B型・就労継続A型事業所に通っている」が67.4%と最も高く、次いで「地域活動支援センター」が17.4%となっています。

全体(N=46)



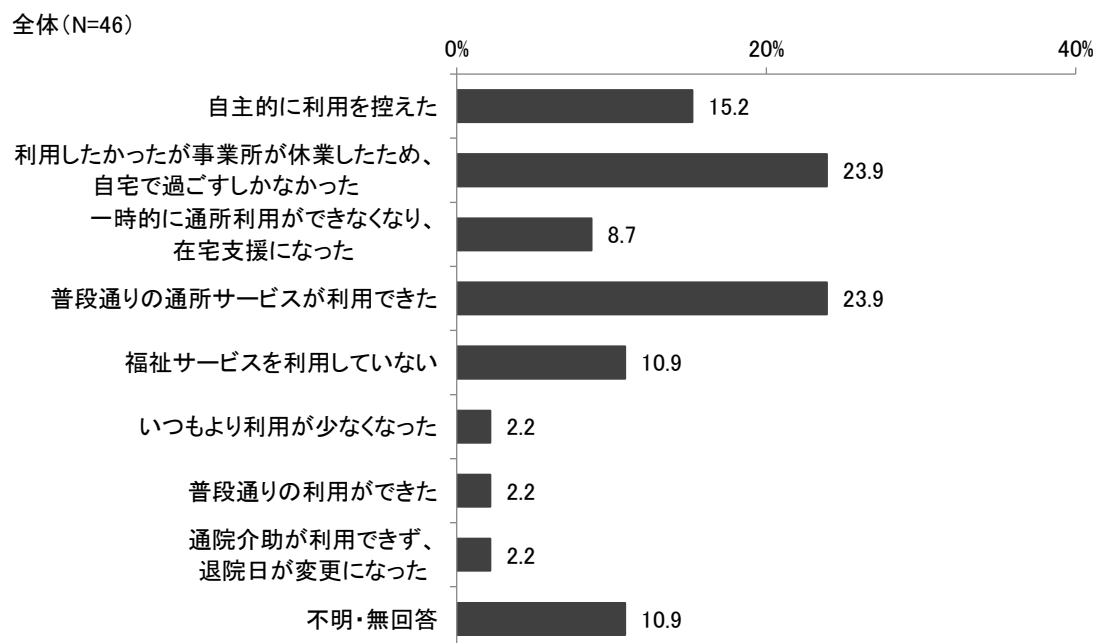
(7)「休みの日」は主にどこで過ごしていますか。〈複数回答〉

休日の過ごし方についてみると、「自宅」が80.4%と最も高く、次いで「買い物」が45.7%となっています。



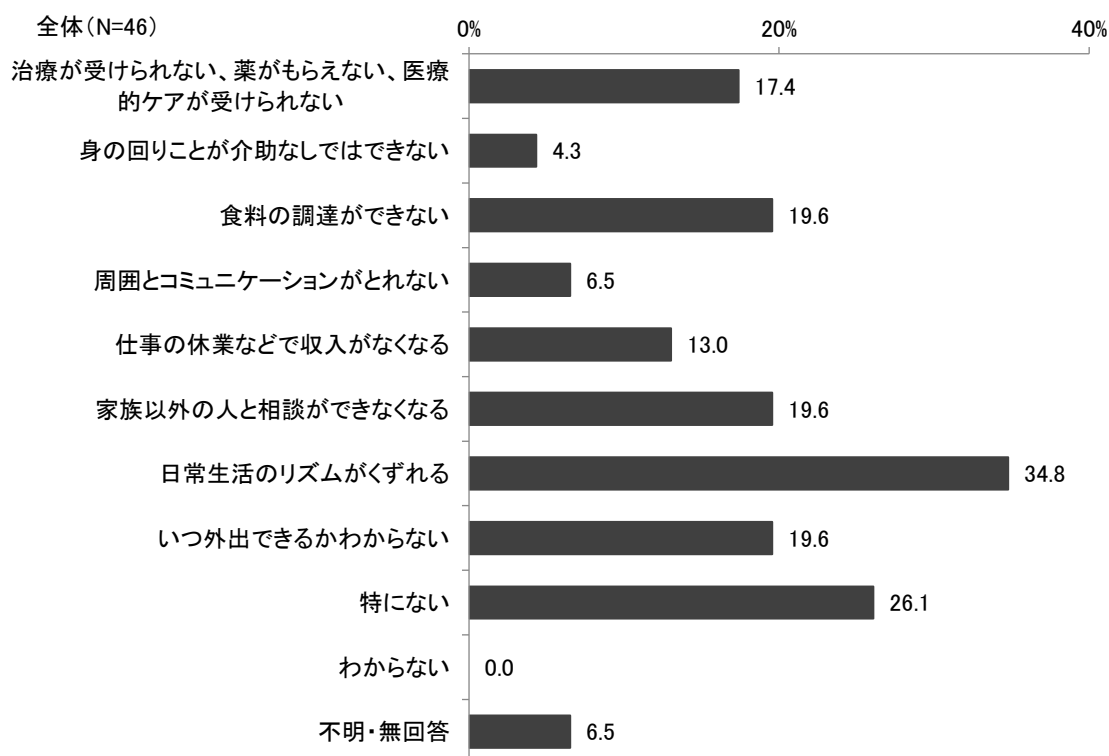
(8) コロナで緊急事態宣言が出たときの福祉サービス利用についてお答えください。
〈複数回答〉

コロナで緊急事態宣言が出たときの福祉サービス利用についてみると、「利用しなかったが事業所が休業したため、自宅で過ごすしかなかった」「普段通りの通所サービスが利用できた」がそれぞれ 23.9%と最も高く、次いで「自主的に利用を控えた」が 15.2%となっています。



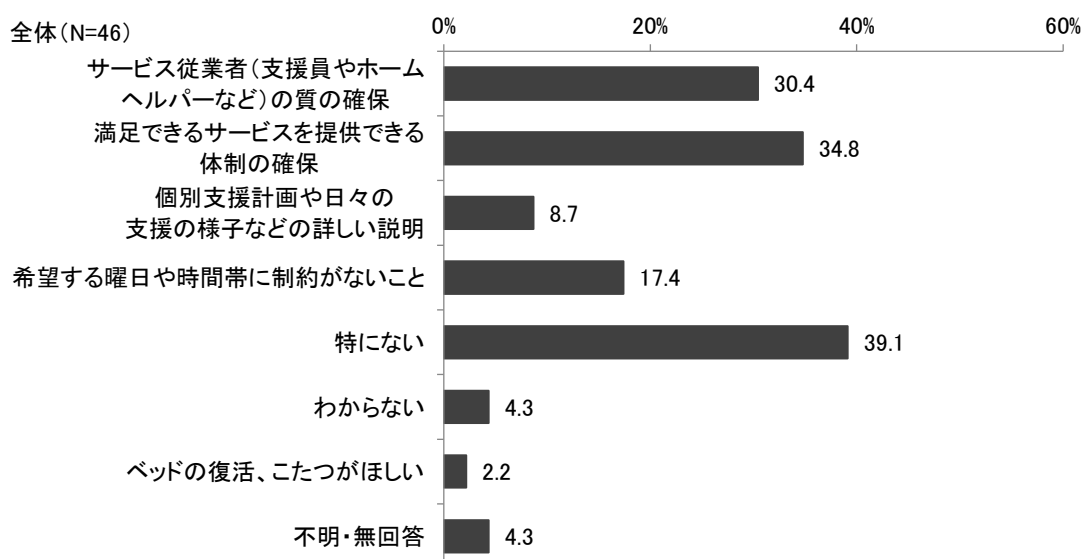
(9) 感染症対策などで外出ができなくなったとき、障害があることで困ること、心配なことはありますか。〈複数回答〉

感染症対策などで外出ができなくなったとき、障害があることで困ること、心配なことについてみると、「日常生活のリズムがくずれる」が34.8%と最も高く、次いで「特にない」が26.1%となっています。



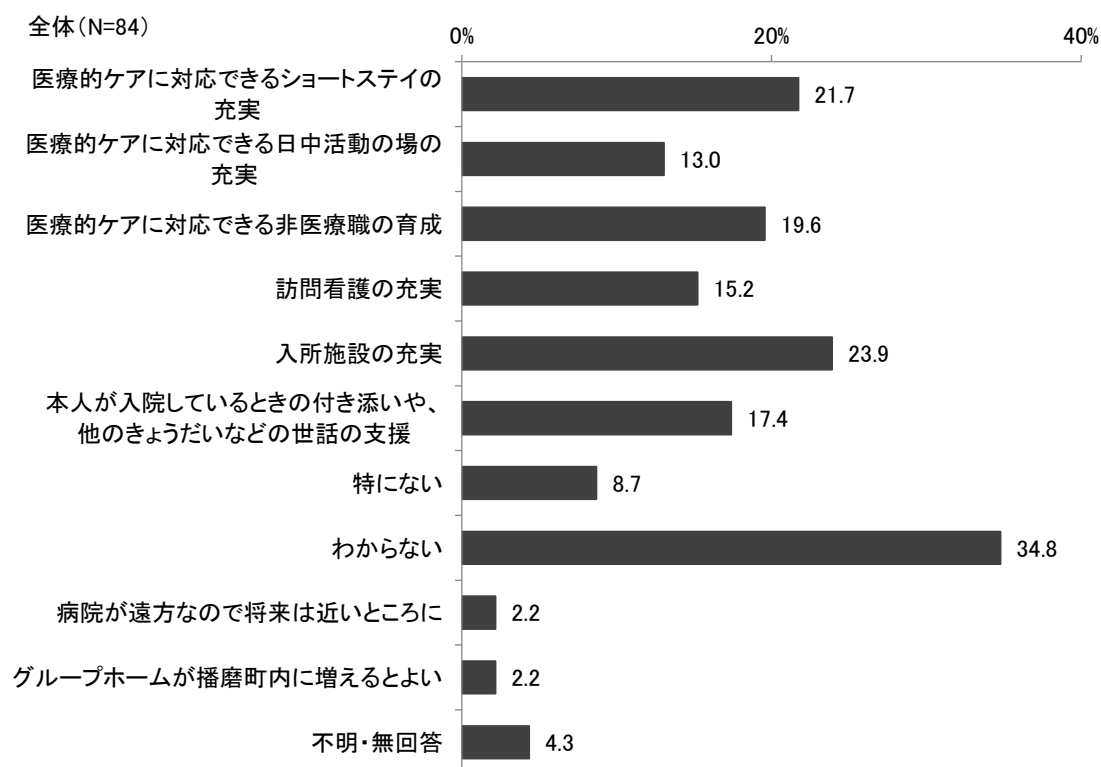
(10) あなたが、サービス提供事業者に対して望むことは何ですか。〈複数回答〉

サービス提供事業者に対して望むことについてみると、「特にない」が39.1%と最も高く、次いで「満足できるサービスを提供できる体制の確保」が34.8%となっています。



(11) 医療的ケアを必要とする人が、安心して暮らすために充実すべきだと思うサービスは何ですか。〈複数回答〉

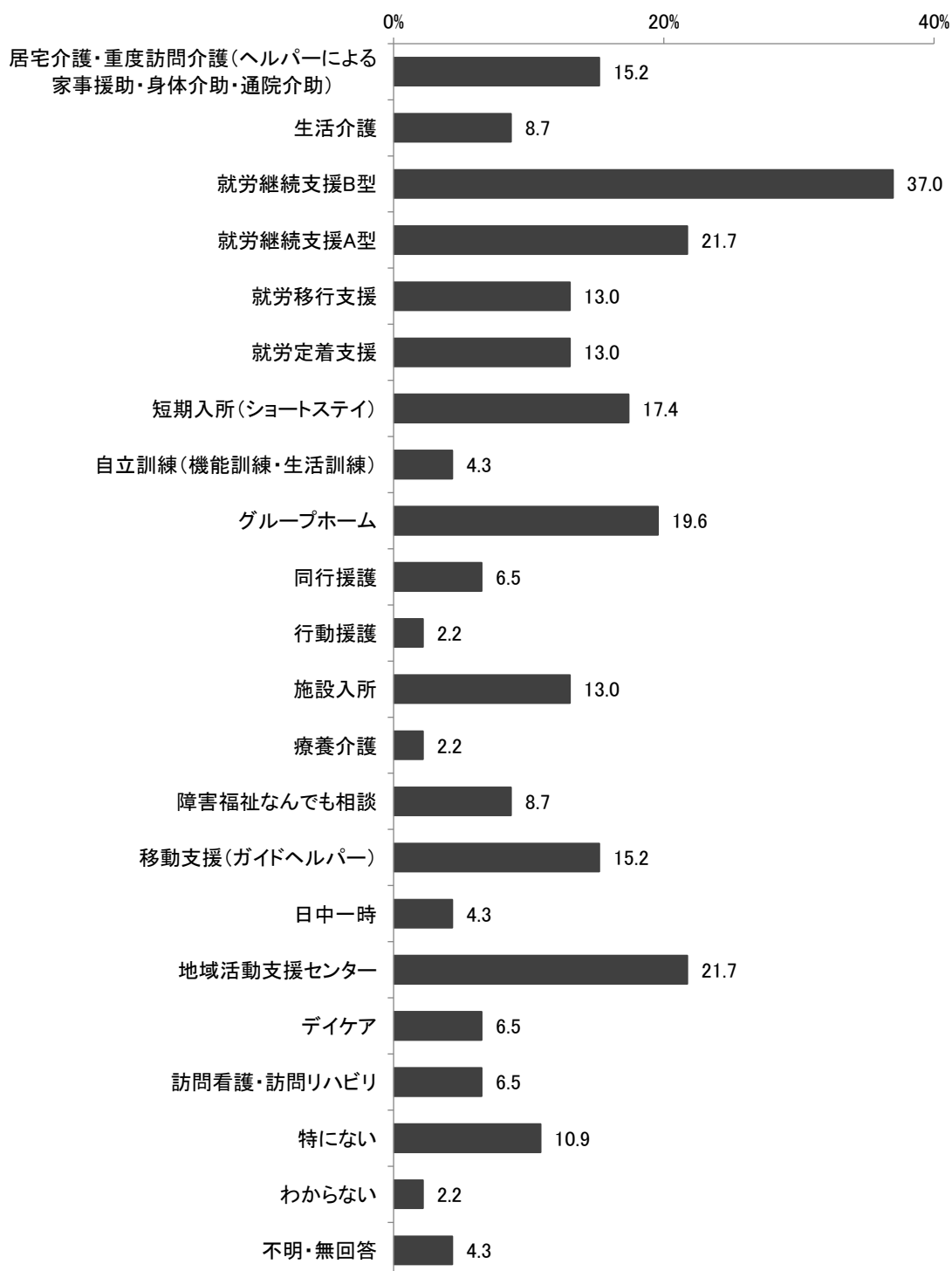
医療的ケアを必要とする人が、安心して暮らすために充実すべきだと思うサービスについてみると、「わからない」が34.8%と最も高く、次いで「入所施設の充実」が23.9%となっています。



(12) 今利用しているサービスも含め、今後使ってみたいサービスは何ですか。
 〈複数回答〉

今後使ってみたいサービスについてみると、「就労継続支援（B型）」が37.0%と最も高く、次いで「就労継続支援（A型）」「地域活動支援センター」がそれぞれ21.7%となっています。

全体(N=46)



(13) 福祉サービスの中で、改善してほしいことは何ですか。〈自由回答〉

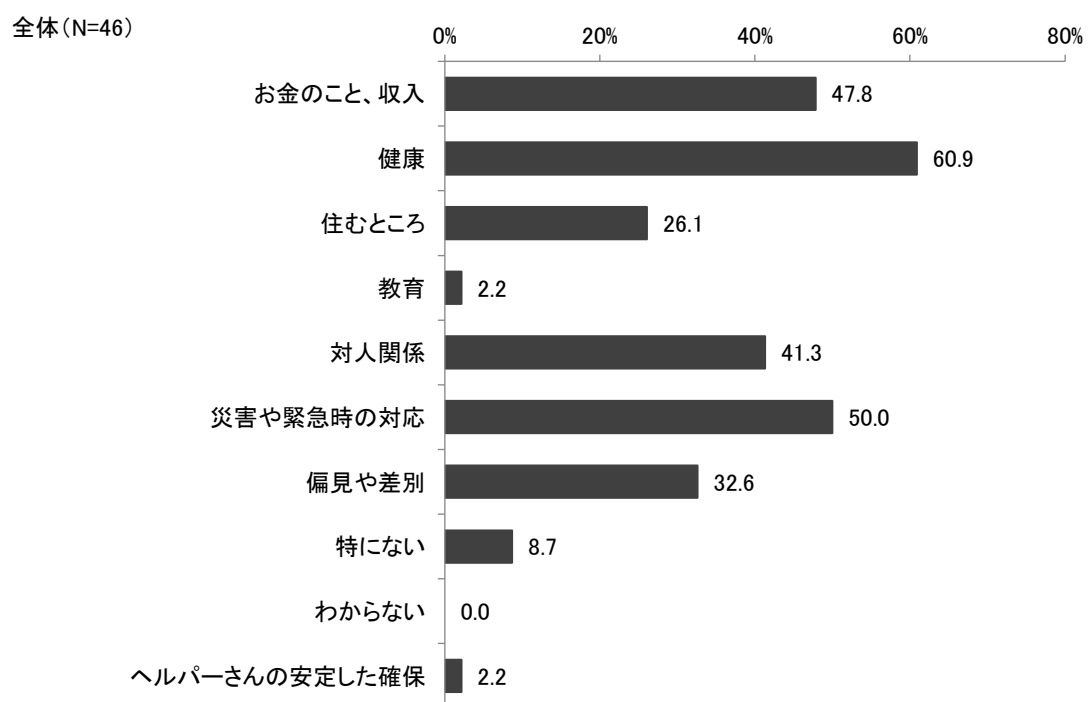
短期入所が充実してほしい。
○グループホームを町内に増やしてほしい。 ○急なサービス日程の変更などが障害特性上苦手なので、なるべく少なくしてほしい。(人手が少ないと思うので難しいかもですが…)
短期入所を一カ月に一週間 1 回利用しているが(今はできない)、一週間の様子を詳しく教えてほしい。
事業所とヘルパーさん、利用者さんとの連絡体制
身の回りのことが少しでもできるように手助けをしてほしい。
福祉サービスを利用するにあたり、支援者の充実、育成、人材の確保に力をいれていただきたい。

(14) 新たなサービスとして作ってほしいものは何ですか。〈自由回答〉

播磨町独自の障害者支援センター
○支援者を助けてくださるようなシステム ○支援者を増やすための相談体制と実際に支援者を派遣してくださるようなシステム。特に多重介護という状態になっている支援者を助けてほしいです。
精神病院以外の病院でも医療費を下げてほしい。
重度訪問を使いながらの就労支援、障害者専用マンション
今から少しでもできることを教えてほしい。
知的障害が本来のものですが、年齢を経て、様々な医療が必要となってくるのが当たり前で、医療の横の連携があれば良いかなとつくづく思います。

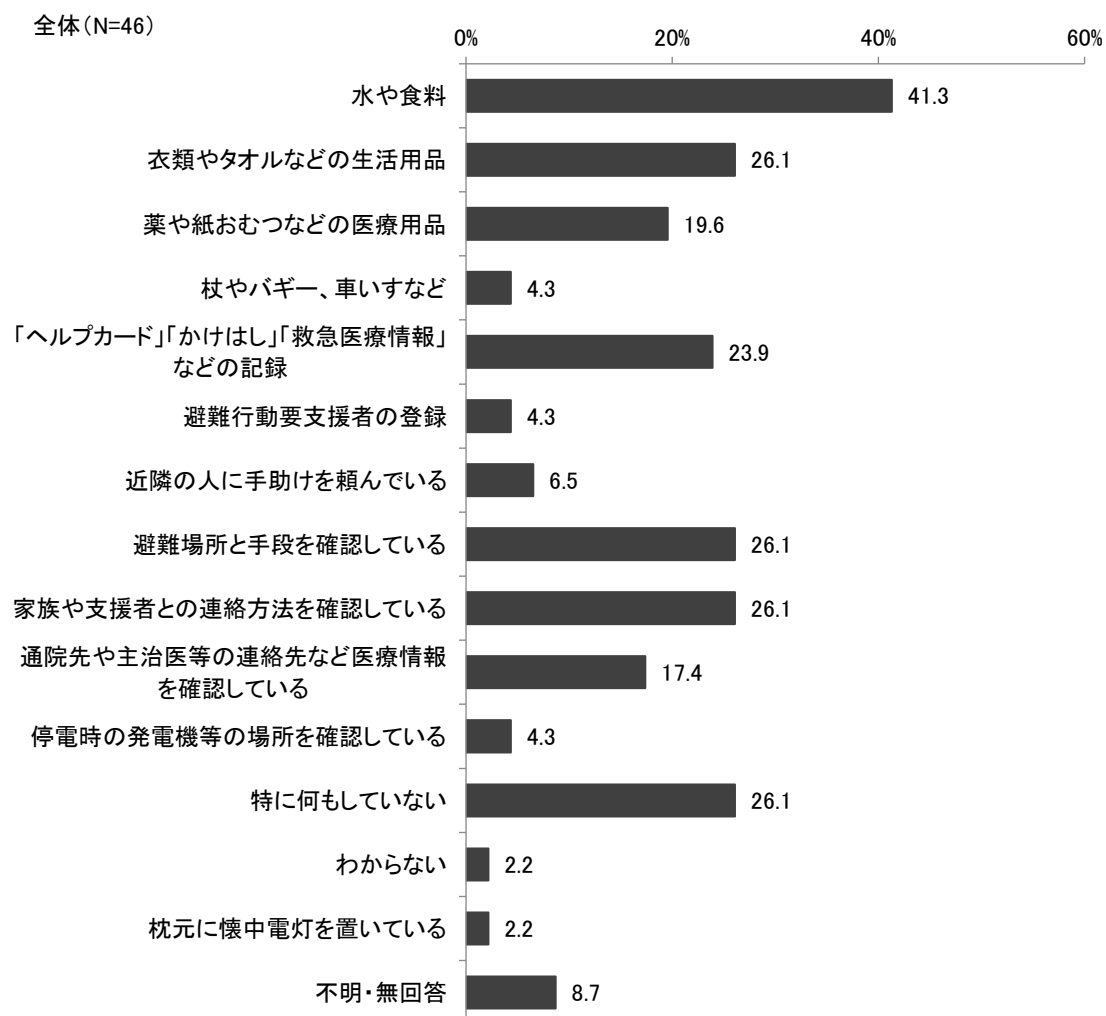
(15) 今後の生活について、気がかりに思うことは何ですか。〈複数回答〉

今後の生活について、気がかりに思うことについてみると、「健康」が60.9%と最も高く、次いで「災害や緊急時の対応」が50.0%となっています。



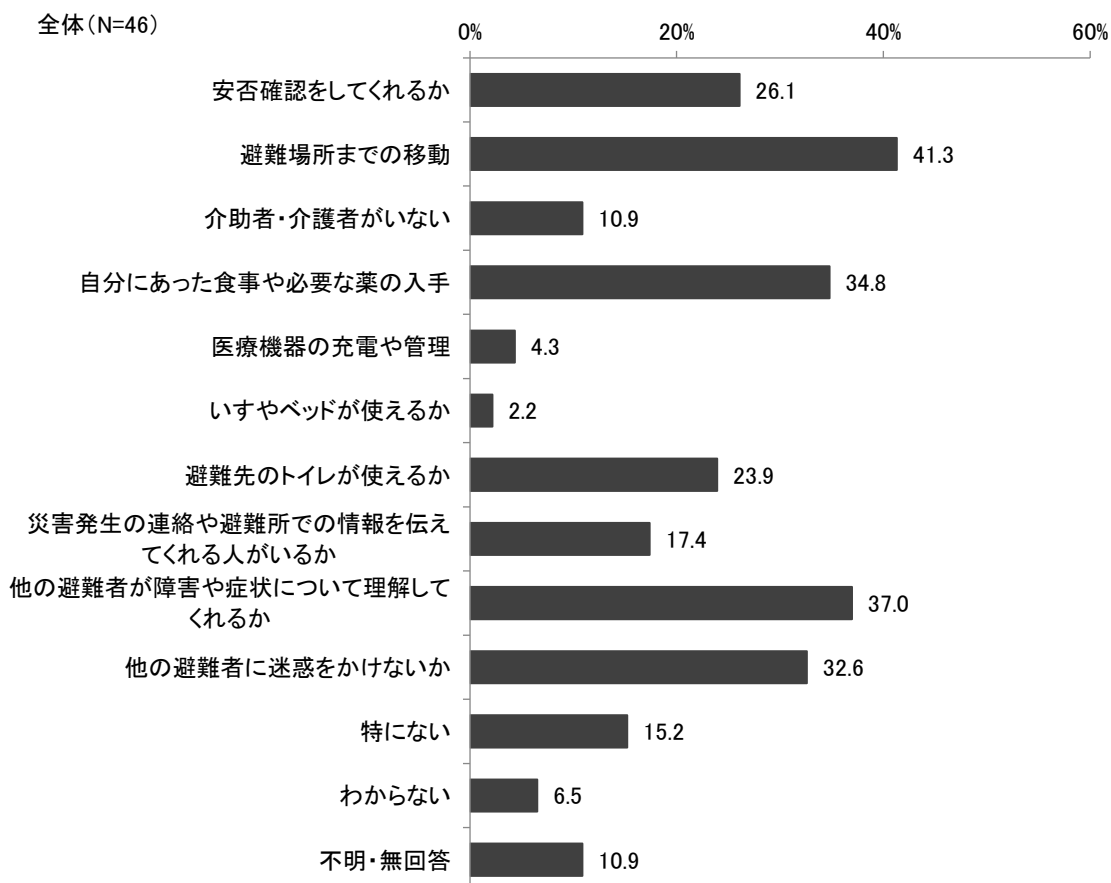
(16) 災害が起こったときのために、準備しているものは何ですか。〈複数回答〉

災害が起こったときのために、準備しているものについてみると、「水や食料」が41.3%と最も高く、次いで「衣類やタオルなどの生活用品」「避難場所と手段を確認している」「家族や支援者との連絡方法を確認している」「特に何もしていない」がいずれも26.1%となっています。



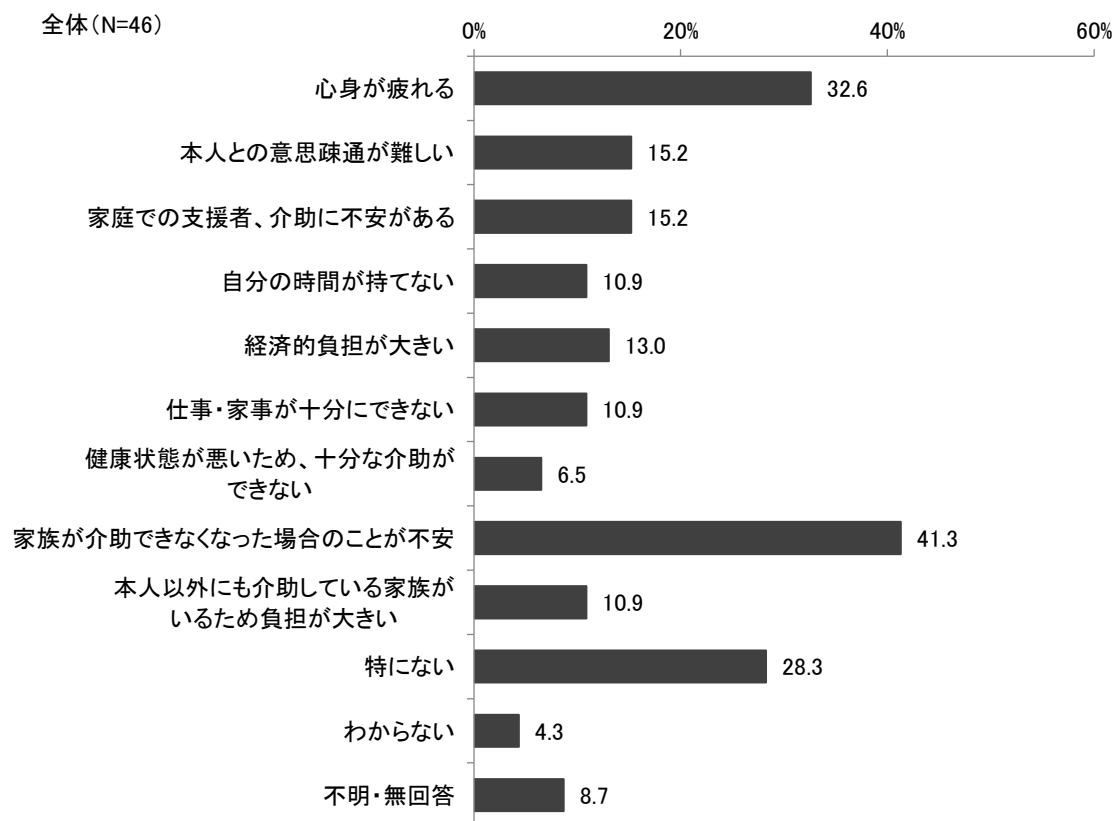
(17) 災害発生時や避難場所での生活で、不安に思うことはありますか。〈複数回答〉

災害発生時や避難場所での生活で、不安に思うことについてみると、「避難場所までの移動」が41.3%と最も高く、次いで「他の避難者が障害や症状について理解してくれるか」が37.0%となっています。



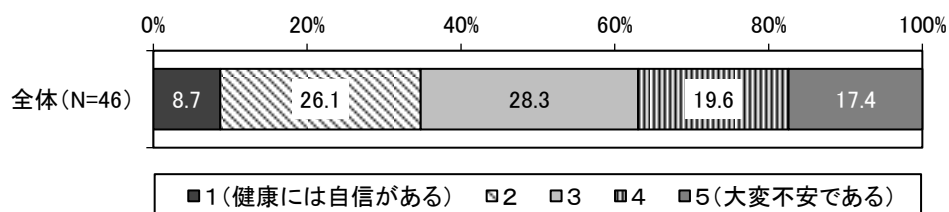
(18) 家族の方が介助等について困っていることは何ですか。〈複数回答〉

家族の方が介助等について困っていることについてみると、「家族が介助できなくなった場合のことが不安」が41.3%と最も高く、次いで「心身が疲れる」が32.6%となっています。



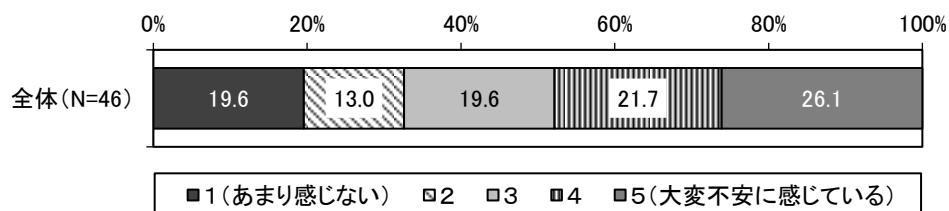
(19) 家族の健康状態はいかがですか。〈単数回答〉

家族の健康状態についてみると、「3」が28.3%と最も高く、次いで「2」が26.1%となっています。



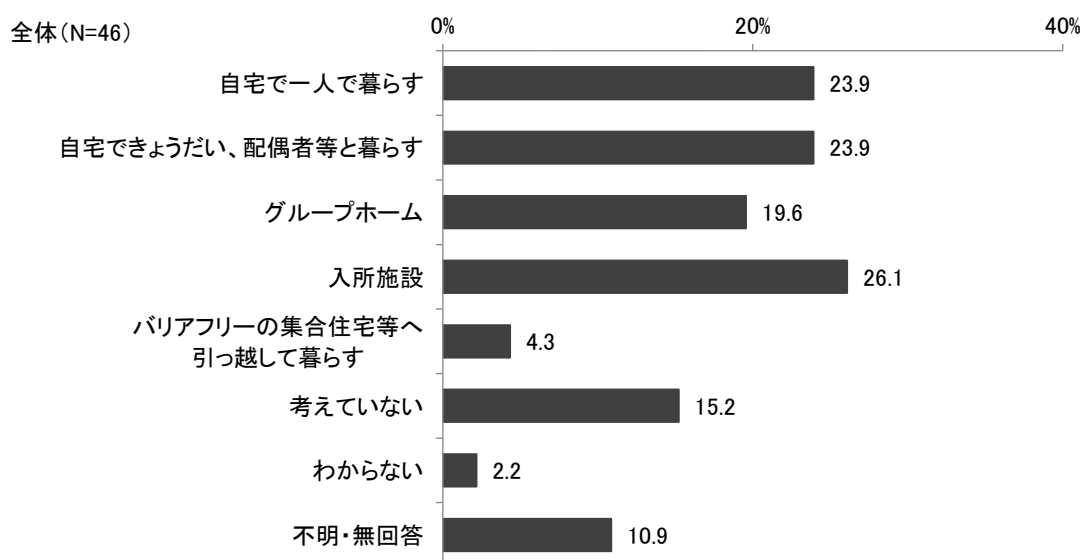
(20) 経済的な不安について、どのくらい感じていますか。〈単数回答〉

経済的な不安についてみると、「5」が26.1%と最も高く、次いで「4」が21.7%となっています。



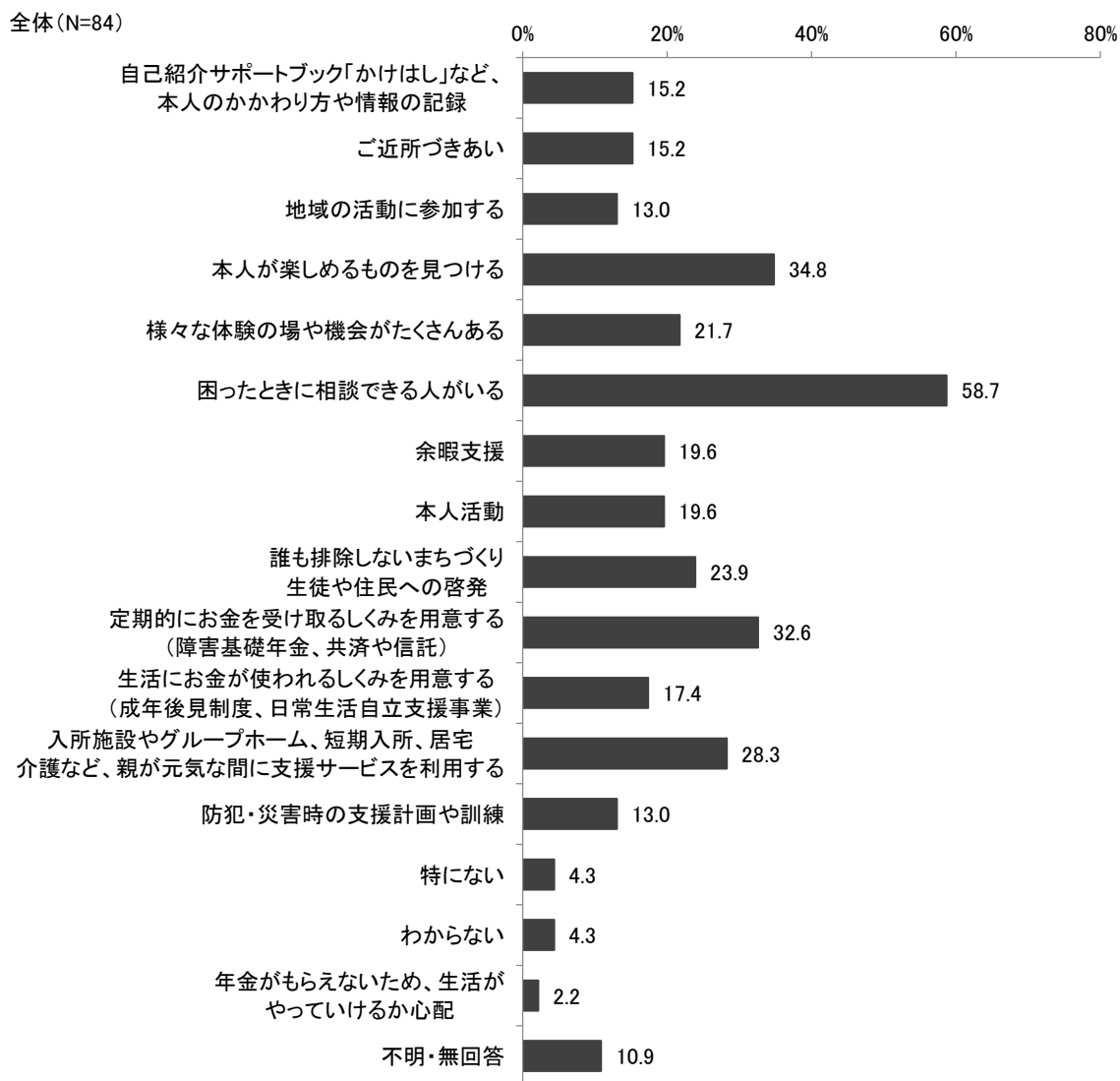
(21) 親なきあと、住まいについてどのようにお考えですか。〈複数回答〉

親なきあとの住まいについてみると、「入所施設」が26.1%と最も高く、次いで「自宅で一人で暮らす」「自宅できょうだい、配偶者等と暮らす」がそれぞれ23.9%となっています。



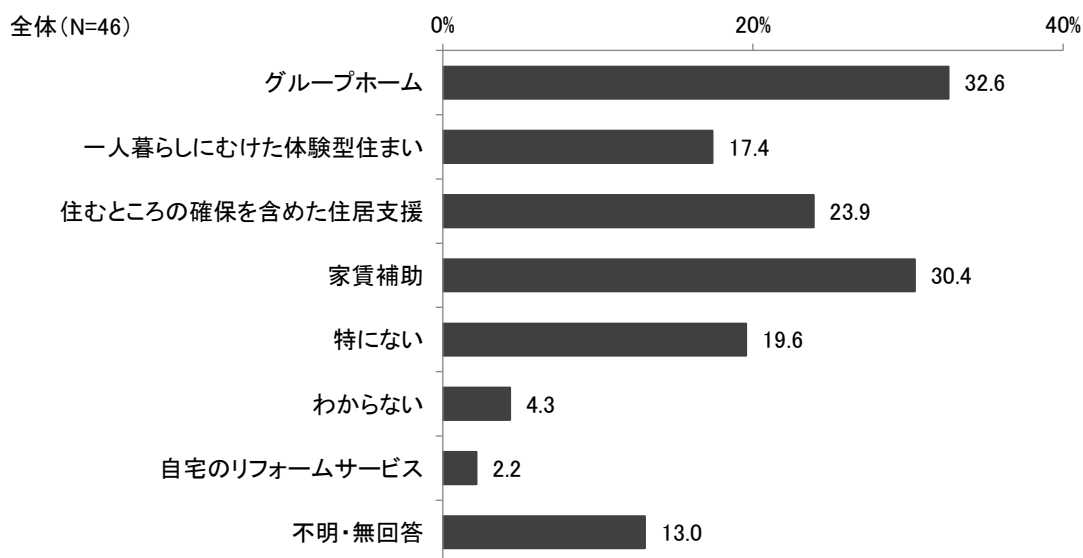
(22) 親なきあとの生活をみすえて、本人が望む生活を実現するために、今からしておくべきこととして、どのようなことが必要だと思いますか。〈複数回答〉

親なきあとの生活をみすえて、本人が望む生活を実現するために、今からしておくべきことについてみると、「困ったときに相談できる人がいる」が58.7%と最も高く、次いで「本人が楽しめるものを見つける」が34.8%となっています。



(23) 住まいについてどのようなサービスがあれば安心ですか。〈複数回答〉

住まいについてどのようなサービスがあれば安心かについてみると、「グループホーム」が32.6%と最も高く、次いで「家賃補助」が30.4%となっています。



(24) 親なきあとの支援の在り方について提案があれば、ご記入ください。

〈自由回答〉

本人の受け入れ場所を作ってほしいです。
定期的な面談等
本人は、役所などで手続きをするのが難しいです。間に入って援助してもらえるとありがたいです。
相談できる人が家族以外にいてほしい。
入所施設を利用したいので必ずしてほしい。
ヘルパーさんに来てもらいたい。
誰もがいつかは親なきあとはやってくるので、すべての町民がいつまでも安心して暮らしていけるようなサービスの構築が必要だと思います。
他の子どもと暮らしているが、負担の少ないように考えている。入所にしても遠い所しかないので、できれば播磨町に建たないでしょうか。
親なきあとのためにショートステイや、緊急時などの受け入れが充実していることが将来に向けての安心材料になると考えます。ゆうあい園で事業が始まるショートステイに大いに期待しています。

(25) 播磨町の障害福祉施策全般について意見があれば、ご記入ください。

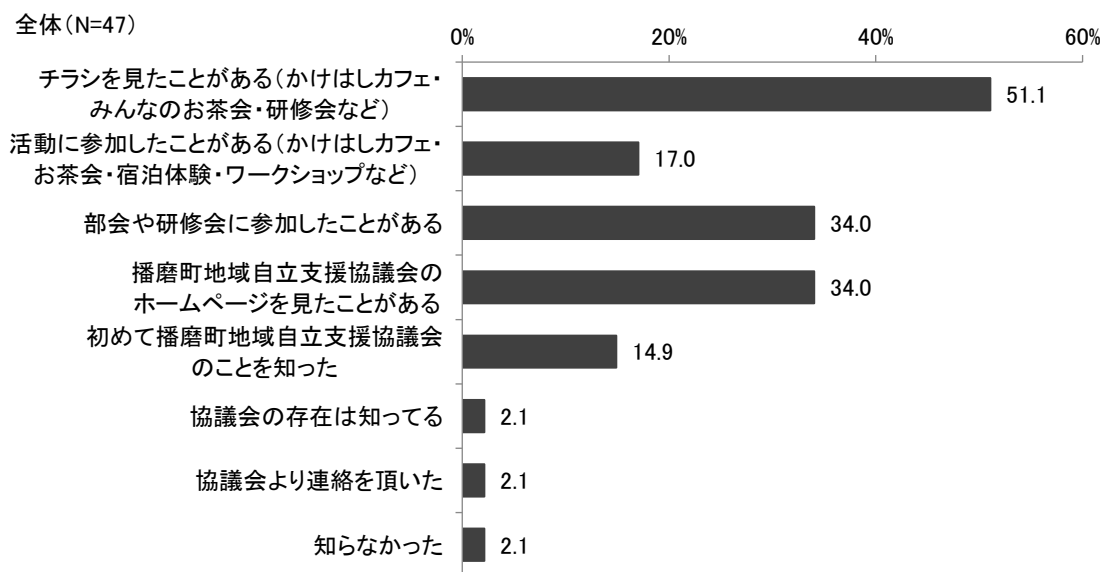
〈自由回答〉

支援が全然足りていない。
親亡き後の障害者が自立しやすいグループホームなどをもっとたくさん作ってほしいです。いずれは一人暮らしが必要になってしまうかと思うので…。よろしくお願いします。
さまざまな特性に配慮できるまちづくり。その人に適切な行動が取れる方法を伝える。その人が情報や相談が得られた上で、自分で決められる支援。
障害者本人への関わりを増やして欲しい。
播磨町は障害者福祉に力を入れていると感じています。今後もより良いサービスにして行ってほしいです。
子どもにあった所や意見を教えてあげてほしい。
近隣の市町村に「障がい者基幹相談支援センター」の開設がなされていますが、播磨町には今後計画はあるのでしょうか。「なんでも相談」を利用しましたが、その日により担当者が違い、相談がつながって行かないように思います。ぜひご検討ください。

3 調査結果(支援者)

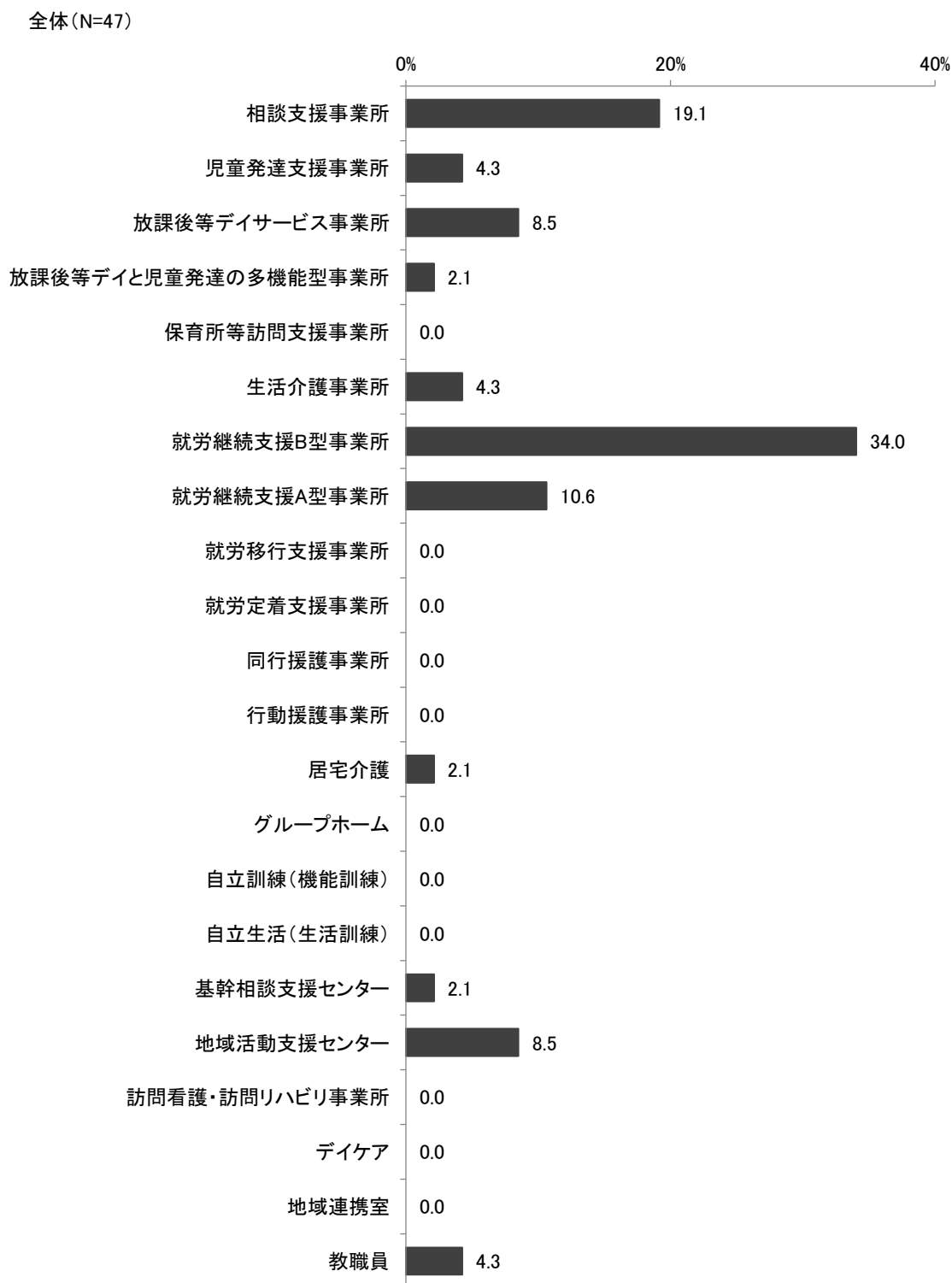
(1) 播磨町地域自立支援協議会を知っていますか。〈複数回答〉

播磨町地域自立支援協議会を知っているかについてみると、「チラシを見たことがある(かけはしカフェ、みんなのお茶会、研修会など)」が51.1%と最も高く、次いで「部会や研修会に参加したことがある」「播磨町地域自立支援協議会のホームページを見たことがある」がそれぞれ34.0%となっています。



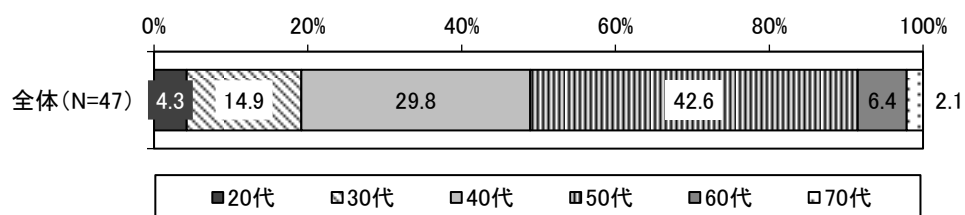
(2) このアンケートに回答されている方の立場をお答えください。〈単数回答〉

回答者についてみると、「就労継続支援B型事業所」が34.0%と最も高く、次いで「相談支援事業所」が19.1%となっています。



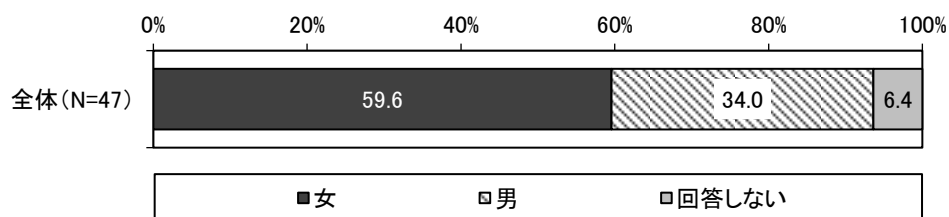
(3) 年齢〈単数回答〉

年齢についてみると、「50代」が42.6%と最も高く、次いで「40代」が29.8%となっています。



(4) 性別〈単数回答〉

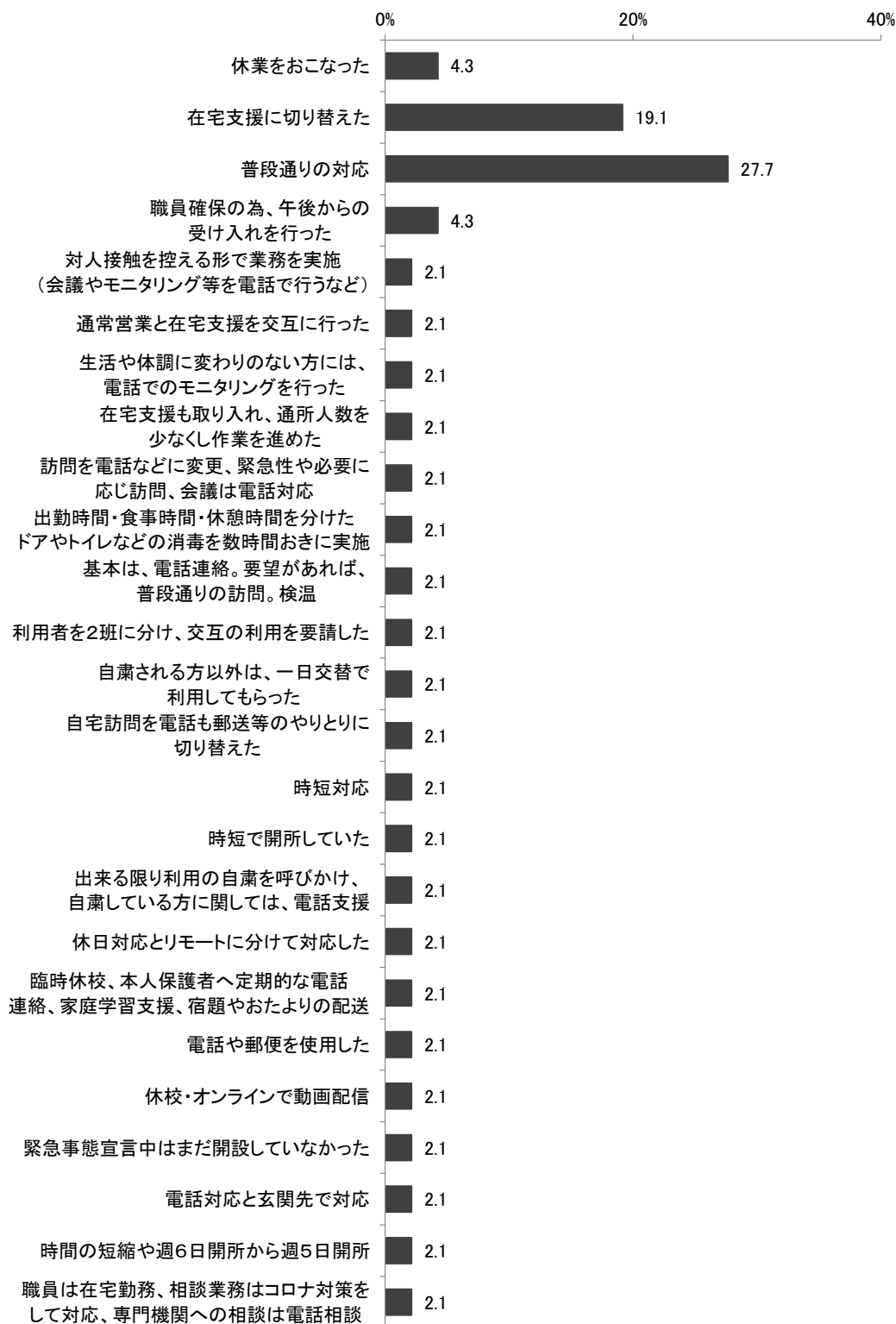
性別についてみると、「女」が59.6%、「男」が34.0%となっています。



(5) コロナによる緊急事態宣言が出たとき、事業所としてどのような対応をされましたか。〈単数回答〉

コロナで緊急事態宣言が出たとき、事業所としての対応についてみると、「普段通りの対応」が27.7%と最も高く、次いで「在宅支援に切り替えた」が19.1%となっています。

全体(N=47)



(6) ウィズコロナの状況下で、どのような相談がありますか。〈自由回答〉

コロナ感染が怖くて、行こうと思っても怖くて行けない。
通学方法(バスの密度、通学時間帯、方法の変更等)について。感染への不安から家庭訪問等の拒否。家庭で落ち着かない等、養育困難に関する相談。
持病を持っているお子さんもいる為、「感染したら」と心配される保護者がいた。
自分が体調不良になった時にどうしたらいいか
いつになったら普段の生活をしてもいいのか判断がつかないとの相談
仕事減少による工賃の心配
感染症対策の在り方、営業日について
外出自粛があるため、思うように外出出来ず、ストレスを抱えている。(ご本人、ご家族)
放課後等デイサービスから受け入れ態勢についての相談。保護者から子どもの居場所についての相談
○働き先が休業もしくは、分散通所になり、生活リズムが崩れた。
○学校に通えないことで、家庭での過ごし方に苦労した。特に、重度の児童さんは、家庭への負担が重い。
○母子家庭、コロナで会社の仕事がなく、派遣契約更新できなかった、金銭面で苦しい。
○働くために子どもの居場所が必要
○大家族、障害を持つ人も複数いる家庭の中、コロナでキーパーソンの父の会社部署が縮小、転勤の話もあったが雇用の折り合いが付かず、退職予定。
○今後の生活の見通しなど難しく、家庭内でのトラブルが予想される。
○学校の休校や自粛生活で生活リズムが崩れ、かんしゃくやこだわりが強くなった、兄弟関係や家族関係の不和がある。
○重症心身障害児者、感染へのリスクが大きく、学校や通所への不安がある。
自粛期間中、家で滞在する時間が長く、親子ともどもイライラがつのる。
親が、本人が感染したらどうしようという不安。事業所に感染があれば利用できず、家族だけで対応できるかどうか不安。
家族に感染者が出たときの当事者の生活基盤をどこに置くのか。
短期入所が利用できなくて自宅での介護が大変だった。
通所していた事業所が休止(倒産)し、新たな通所先を探したい等
感染拡大当初は、発熱時のサービス利用をどうしたらいいか相談があったが、現在は特に相談はありません。
感染リスクの不安。作業所内の作業人数。ご本人のストレス等
感染対策について
持病がある利用者からの感染不安の相談や少し前のマスクが買えないという相談が多かった。
感染拡大の懸念や不安
生活困窮

(7) ウィズコロナの状況下で、サービスの利用傾向にどのような変化が感じられましたか。〈自由回答〉

外出企画・歌の会等、密になるプログラムの変更を余儀なくされた。
感染への不安からの登校自粛、登校できる喜びを感じている児童生徒や保護者の増加。
気にせず預ける保護者の方もおられた。その為、感染予防の協力をお願いし、理解してもらうのが大変でした。
自主的に休まれる方がいらっしまった。
変化はほぼない。
特に大きな変化は無いが、利用自粛する大半の利用者は若年層が多かった。
開所しているので、助かるとの声が多いこと。
緊急事態宣言が出ている間は、自粛される方も多かった。利用者本人だけでなく、兄弟姉妹の体調変化を気にしてくれるようになった。
○面談への不安が強い利用者、ご家族の場合、サインが必要な書類を郵送で対応したケースもある。 ○休校や事業所の代替えサービスで、通える場がなくなり、不安定になる障がい児・者がいた。 ○日中一時や短期入所も新規を取らない状態があり、必要なサービスに繋がれなかった。 ○こだわりの強い児童の場合、放課後等デイサービスも長時間預かりの事業所を希望される傾向があった。 ○こだわりが少なく自宅で過ごせる児童の場合、代替え期間が過ぎ希望を聞かれた場合、感染を懸念し自宅での生活を続ける傾向があった。 ○居宅での支援が必要な重症心身障害児者や精神疾患等の家庭は、訪問看護を利用している場合が多いが、福祉サービスの事業所が利用できない時も、訪問看護が継続利用でき、家庭支援が途切れなかった。福祉だけではないサービスの必要性を改めて感じている。
公共交通機関を利用して通所していた人が送迎に切り替わった。
一時期、代替サービスが増えたが、時間が経過すると通所利用がもとに戻ってきた。
事業所の利用を一部自粛
自主的に予防のために、通所を控える利用者がいた。
緊急事態宣言の間は、自主的にお休みされている方もいました。
通所型の事業所の利用者の利用自粛、事業所の受け入れ自粛、訪問型サービスの訪問自粛。
短時間での利用を希望される方がおられました。
短期入所の利用が全面的に中止になったり、生活介護や放課後等デイサービスの利用人数の制限、事業所の休業。
仕事柄普段から手洗い、消毒をしていたが、以前以上に手洗い、消毒の徹底をした。
利用者や事業所より訪問を控えてほしいとの要望が出ることもあり、直接会うことができない場合がある。
作業が忙しくなった。
特に変化はない。
特に変化は感じられません。
利用時間を振分し通所されているので、働く時間が短くなっている。
緊急事態宣言解除以降は通常
利用回数の減少は見られていない。
健康に気遣うことが多かった。

変わらないと感じます。
不安から欠勤が多くなった。

(8) ウィズコロナの状況下、事業所として今困っていることは何ですか。

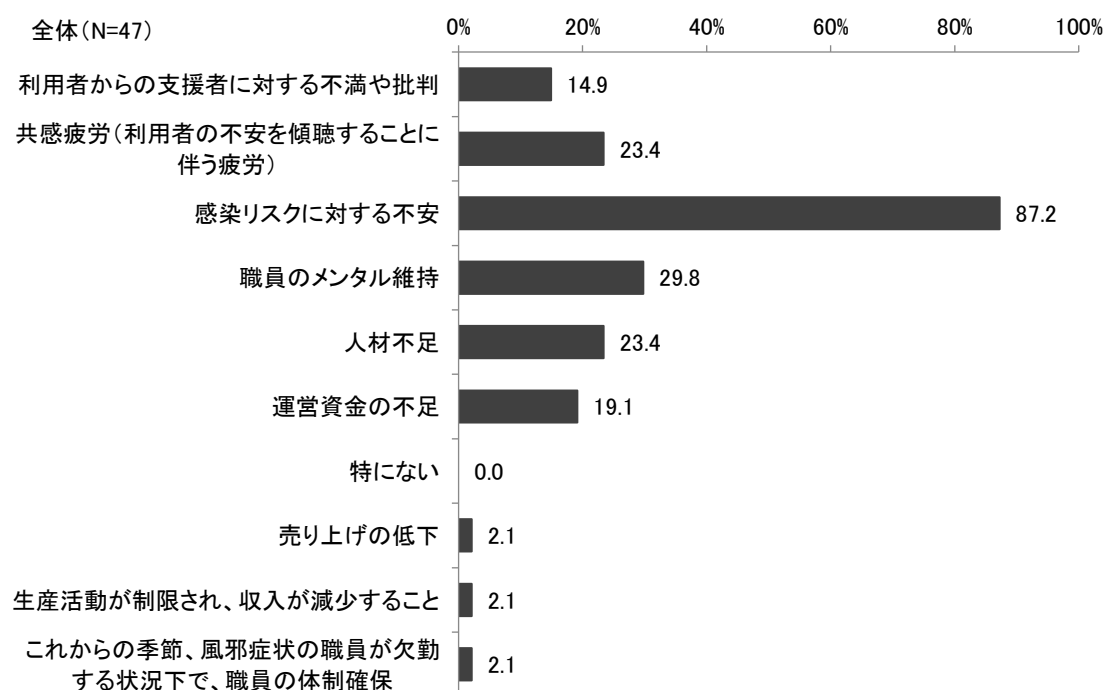
〈自由回答〉

利用者・スタッフの健康管理。利用者のご家族の健康管理が不透明になりがち。
マスクによる暑さ。熱中症への対策。会議で集まりにくい。研修、授業(調理実習、歌唱)、行事(遠足、プール、修学旅行、運動会等、職場での実習、家庭訪問)が思うように実施できない。身体的な支援をしづらい。子ども同士の交流をさせにくい。
限られたスペースでの密を避けることが難しい。
事業所の行事が開催できない。
ソーシャルディスタンスの確保と空調設備
検温や消毒等の感染予防が大変。会社から提供されている仕事の量が少し減った。利用者がコロナにストレスを感じている。
健康診断を断られ、できないこと。余暇活動(バス旅行、健康体操等)を中止せざる得ないこと。インフルエンザ予防接種をしていただけるかどうか。
保護者が感染した場合、濃厚接触者であり基礎疾患のある本校の子どもたちがどこで受け入れしてもらえるのか。課題が大きすぎて半年たった現在も明確な対応が見いだせていない。
訪問を断られるケースは発生しているため、自宅での様子、当事者の表情など実際に見ることが難しく、モニタリングを平常どおりできない場合がある。
マスクの着用により、利用者の表情の変化がわかりにくい。支援者の表情もわかりにくいいため、利用者支援の際に伝わりにくさを感じる。感染予防のための、除菌や清掃に手間が取られる。
○電話等の調整では解決しない場合、必要最小限での連携会議を行っている。感染予防には注意しているが、無症状者の場合もあり、本当に大丈夫か心配はある。
○会議をリモートにするとっても、利用者や保護者など対応が難しい場合が多い。
飲食をやっているが、来客数が減って売り上げが減少している。
対面での聞きとりができにくく、電話では思いを汲み取りにくいこと。事業所内等で感染が出れば、対応できなくなるのではないかとのこと。
特になし。消毒など基準に沿って実施しています。
コロナ禍における、利用者のニーズに即座に対応できる社会資源が乏しい。
イベントなどの中止、請負先の仕事の減少
マスクをして外出されているが、危機感はなく以前と同じように外出されています。
マスク・消毒液が足りない。
行事等がなくなり出張販売が出来なくなり、売り上げが落ちている。
長時間滞在の利用者の受け入れが難しい。
利用者不足
密を避けること、販売機会の減少

今後、いつまでこのような状況が続くかわからず、続くのであれば、ZOOM 等を使った面談や会議を取り入れる必要性があるかどうか。
仕事がまばらにしか入ってこないので段取りをつけにくい。仕事をしているが安価な仕事のため工賃アップに繋がっていない。
感染者発生後の利用者の支援。代替サービスの提供となっているが、確保ができない。
感染対策、外出等の行事の実施が難しい。
消毒やマスク、体温計や健康指導、三密をさけるための作業など、経費と作業手間、支援内容が膨大に増え、支援員の疲弊が著しいのが懸念材料
自主生産品を販売できる機会が減っていること
施設外就労が激減している。

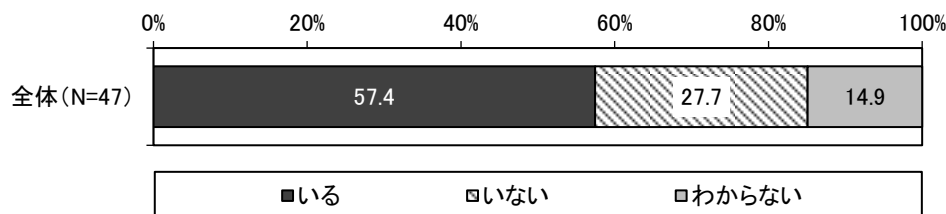
(9) ウィズコロナの状況下、今後のサービス提供事業所の運営において懸念されることは何ですか。〈複数回答〉

ウィズコロナの状況下、今後のサービス提供事業所の運営において懸念されることについてみると、「感染リスクに対する不安」が87.2%と最も高く、次いで「職員のメンタル維持」が29.8%となっています。



(10) 支援者からみて「親なきあと」が目前に迫っていると思われる方がいますか。
 〈単数回答〉

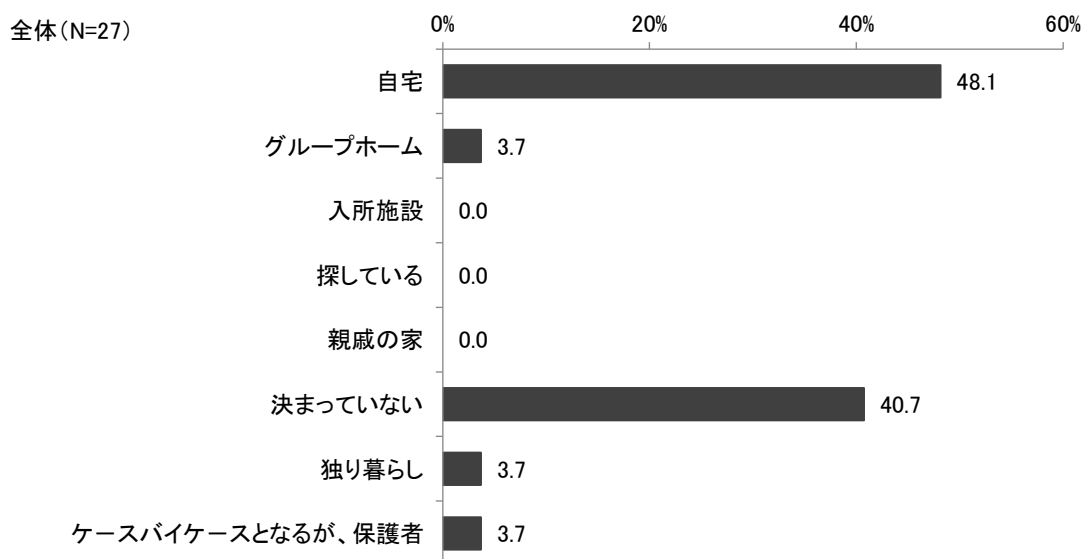
支援者からみて「親なきあと」が目前に迫っていると思われる方についてみると、「いる」が57.4%と最も高く、次いで「いない」が27.7%となっています。



「いる」と答えられた方にお尋ねします。

(11) その方の住まいは確保されていますか。〈単数回答〉

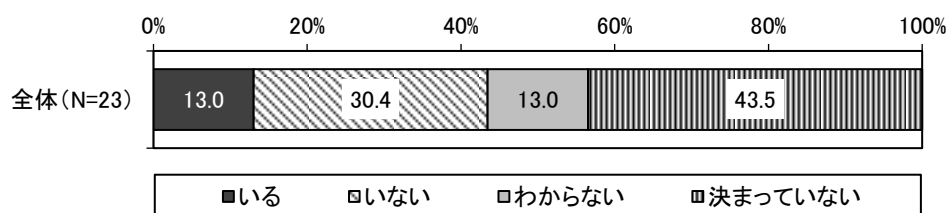
住まいの確保についてみると、「自宅」が48.1%と最も高く、次いで「決まっていない」が40.7%となっています。



「いる」と答えた方にお尋ねします。

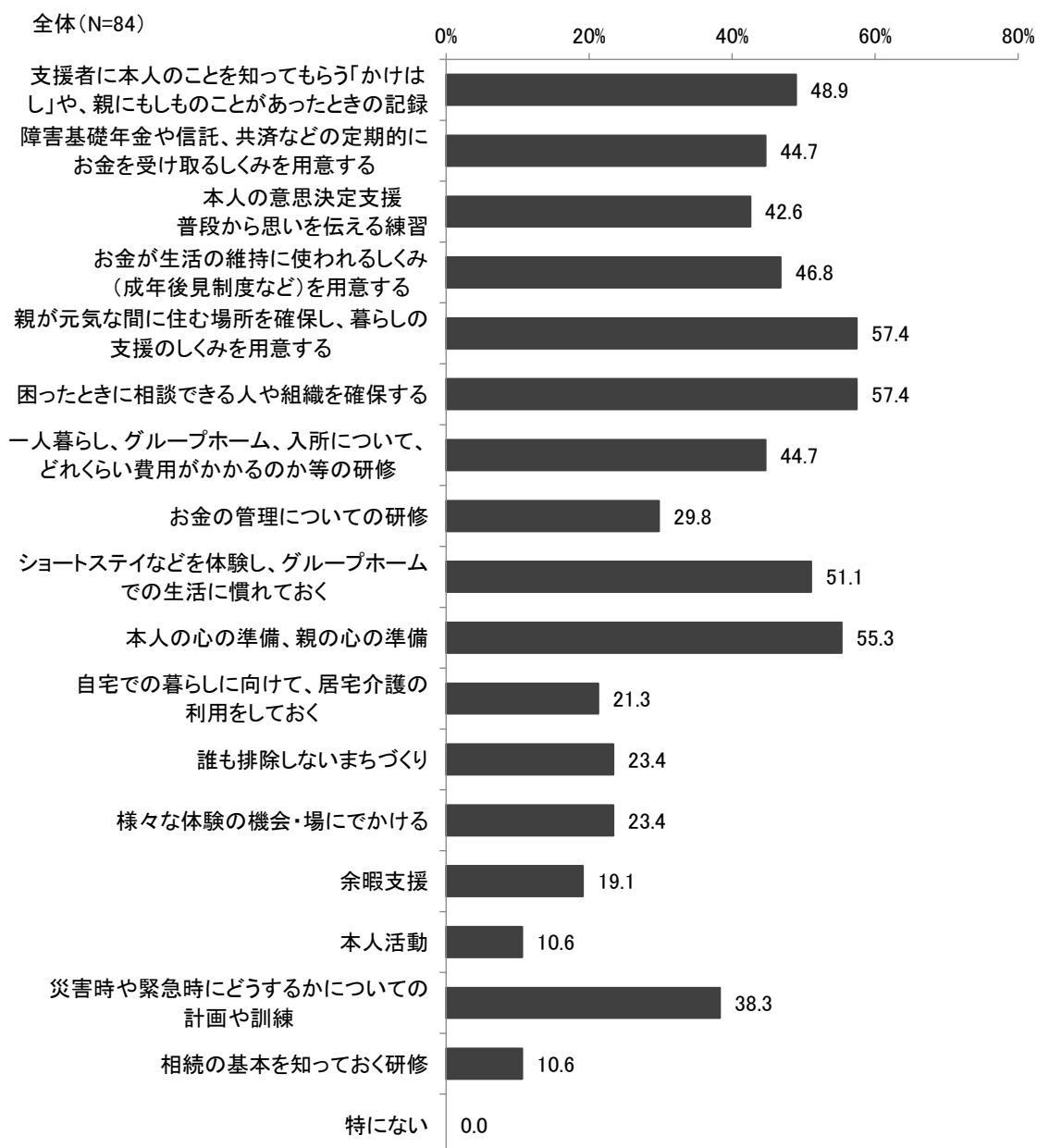
(12) その方には、見てくれる方がいますか。〈単数回答〉

見てくれる方についてみると、「決まっていない」が43.5%と最も高く、次いで「いない」が30.4%となっています。



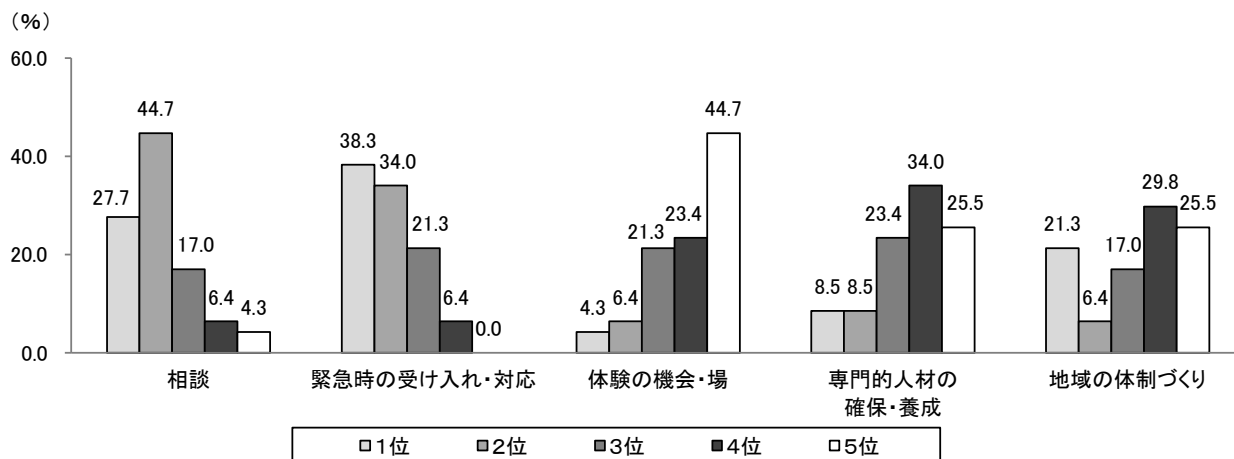
(13) 親なきあとの生活をみすえて、本人が望む生活を実現するために必要だと思うものは何ですか。〈複数回答〉

親なきあとの生活をみすえて、本人が望む生活を実現するために必要だと思うものについてみると、「親が元気な間に、住む場所を確保し暮らしの支援のしきみを用意する」「困ったときに相談できる人や組織を確保する」がそれぞれ 57.4%と最も高く、次いで「本人の心の準備、親の心の準備」が 55.3%となっています。



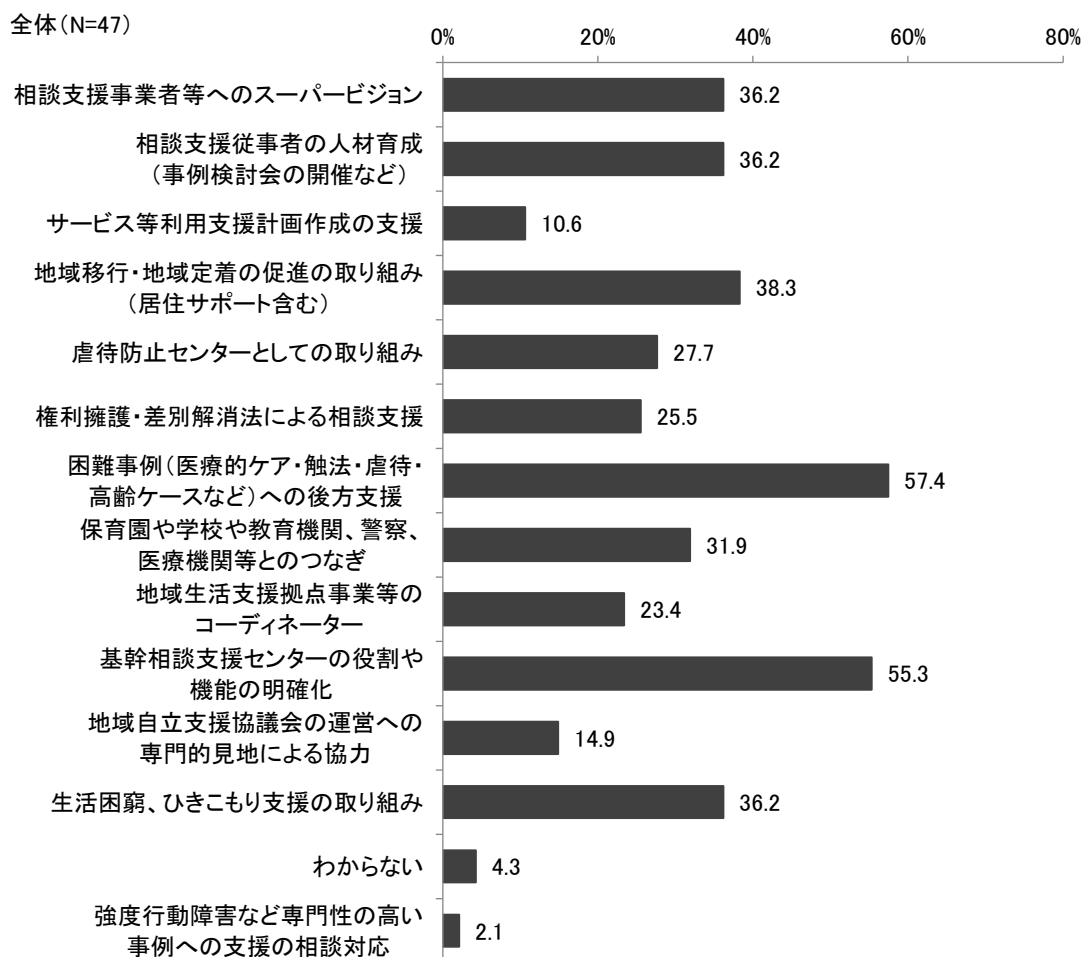
(14) 地域生活支援拠点の整備にあたって、播磨町で取り組む場合の優先順位はどうなりますか。〈それぞれ単数回答〉

地域生活支援拠点の整備にあたって、播磨町で取り組む場合の優先順位についてみると、[相談]では「2位」が44.7%、[緊急時の受け入れ・対応]では「1位」が38.3%、[体験の機会・場]では「5位」が44.7%、[専門的人材の確保・養成]では「4位」が34.0%、[地域の体制づくり]では「4位」が29.8%と最も高くなっています。



(15) 播磨町にも基幹相談支援センターができました。地域生活拠点の面的整備を行う上で、基幹相談支援センターに期待することは何ですか。〈複数回答〉

地域生活拠点の面的整備を行う上で、基幹相談支援センターに期待することについてみると、「困難事例（医療的ケア・触法・虐待・高齢ケースなど）への後方支援」が 57.4%と最も高く、次いで「基幹相談支援センターの役割や機能の明確化」が 55.3%となっています。



(16) 播磨町の障害福祉施策全般について意見があれば、ご記入ください。
〈自由回答〉

東播磨地域の中では頑張っている印象。今後も障害福祉の向上に向けて頑張してほしい。
近年、特に 10 歳未満を中心に医療的ケア児が町内においても増えてきています。課題抽出ならびに解決に向けての協議の場を作っただけだと助かります。学校としても協力させていただきます。
横のつながり(コミュニケーション)の場が欲しい。
行政を含めた人材育成が急務、計画を実行するための町の体制づくりが必要です。